



法政大学ソーシャル・イノベーションセンター Annual Report 2023 vol.1

HUCC から SIC への軌跡

法政大学ソーシャル・イノベーションセンター

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

法政大学多摩キャンパス 1号館（総合棟）2階

TEL : 042-783-3014（平日 9:00～11:30、12:30～17:00）

Mail : sic@ml.hosei.ac.jp Web : <https://www.hosei.ac.jp/sic/>

目次

ご挨拶	3
HUCC から SIC へ	4
SIC の概要	6
つくり続ける～INNOVATION～	8
学ぶ～CLASS～	10
実践する～LAB.～	13
交流する～CAFE～	23
参加する～EVENT～	26
触れる～VOLUNTEER～	28
多摩地域交流センター(HUCC)の 10 年	30

ご挨拶

法政大学ソーシャル・イノベーションセンター(SIC)は、多摩キャンパスが立地する町田市、八王子市、相模原市といった周辺地域の社会課題の解決にチャレンジすることを目的としています。2013 年度に開設した多摩地域交流センター(HUCC)を発展的に改組し、多摩キャンパスのボランティアセンターも統合することで、2023 年度に新設しました。HUCC の 10 年間の歴史の中で、学生たちは周辺地域との交流を深め、周辺地域の方々とともに、市街地・ニュータウン地域、および農村・中山間地域における様々なフィールドで社会課題の解決にチャレンジしてきました。団地や商店街の活性化、地域コミュニティの再生、災害対策、伝統文化の継承、耕作放棄地の有効活用、サーキュラーエコノミーの実践等、一部のプロジェクトでは目に見える成果にも結びついています。SIC ではこうした活動を引き継ぎ、周辺地域の方々と交流をより一層深めながら、企業や行政とも連携を図りつつ、「社会課題解決のための仕組みづくり」に取り組んでいきたいと考えています。

SIC のビジョンは、「社会課題を解決するための革新的な仕組みをつくり続ける中心的な拠点になること」であり、具体的なミッションとしては、1)ソーシャル・イノベーションマインドを醸成し、実践に結び付けるための人材育成・輩出、2)ソーシャル・イノベーションに関する研究の推進、3)ソーシャル・イノベーションのためのトライセクター連携の推進を行うことを掲げています。また、多摩キャンパスは文系学部が主体であるために、技術的なシーズ起点でなく、社会課題を起点としたソーシャル・イノベーションを目指しています。まだ緒に就いたばかりですが、こうした理念を実現すべく邁進していきたいと思います。

なお、当センターは本学教職員で構成される「ソーシャル・イノベーションセンター運営委員会(センター長、副センター長含む)」によって運営され、日常業務はコーディネーター、本学職員、および学生スタッフが担当しております。また、専門領域を有した連携研究員も所属しています。2023 年度の運営体制は次頁の通りです。

当センターの取組に関心のある方は、どなたでもお気軽にお問い合わせ、お立ち寄りください。周辺地域、企業、行政の方々には引き続きご支援頂ければ幸甚です。何卒よろしくお願い申し上げます。

2024 年 2 月

法政大学ソーシャル・イノベーションセンター長
系久 正人(社会学部准教授)

2023 年度 SIC 運営体制

(2024 年 2 月時点)

センター長	糸久 正人(社会学部准教授)
副センター長	函司 直也(現代福祉学部教授)
運営委員	中谷 安男(経済学部教授)
	樋口 明彦(社会学部教授)
	島本 美保子(社会学部教授)
	野田 岳仁(現代福祉学部准教授)
	高見 京太(スポーツ健康学部教授)

連携研究員	杉浦 未樹(経済学部教授)
	田中 優希(経済学部教授)
	谷本 有美子(社会学部准教授)
	土肥 将敦(現代福祉学部教授)
	千葉 岳志(日本郵政株式会社 スポーツ&コミュニケーション部部长)
	木暮 美菜(淑徳大学地域創生学部助教)

コーディネーター 事務局	本野 直子 多摩事務部多摩事務課学務担当
-----------------	-------------------------

SIC 学生スタッフ(学年・50 音順)

2023 年度代表	花岡 純光(現代福祉学部 3 年生)
4 年生	廣海 夏帆(社会学部)
	山下 友梨子(現代福祉学部)
3 年生	小田 馨太(社会学部)
	花岡 蒼士(社会学部)
2 年生	有賀 翼(現代福祉学部)
	島袋 光弥(社会学部)
1 年生	寺田 光希(現代福祉学部)
	南光 開斗(現代福祉学部)

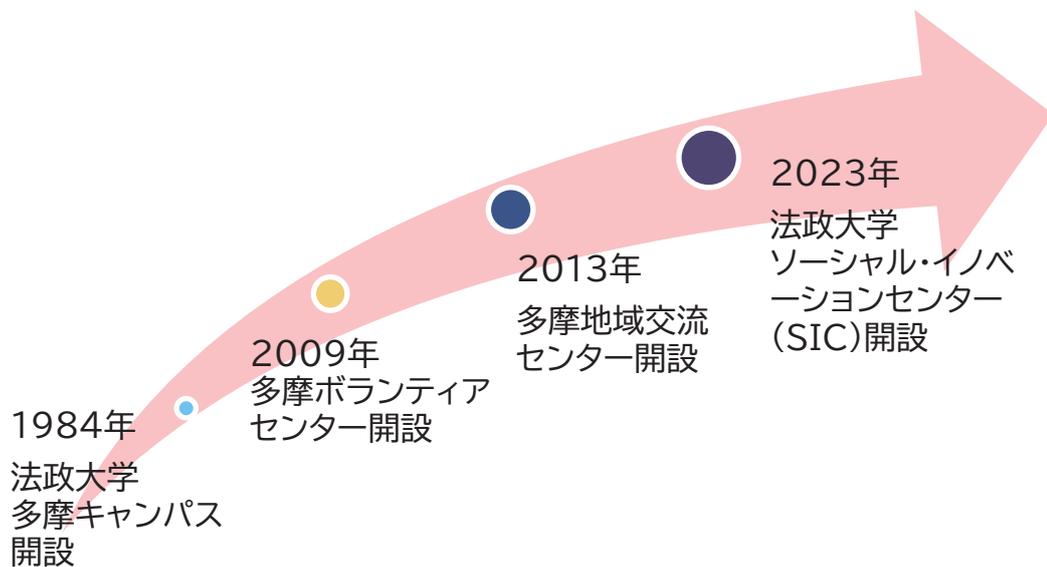
HUCC から SIC へ

法政大学多摩キャンパスは、1984 年の開設以来「地域社会と大学の共生」、「地域に開かれた大学」を標榜してまいりましたが、2013 年 4 月、地域と大学の交流・連携を深め、強めるために、「多摩地域交流センター(HUCC)」を開設しました。

同センターではその後 10 年で、都市部や農村・山間部における様々な社会課題の解決にチャレンジし、団地や商店街の活性化、地域コミュニティの再生、災害対策、伝統文化の継承、耕作放棄地の有効活用、サーキュラーエコノミーの実現化等を通して、数多くの学生が学び、成長し、活動も目に見える成果に結びつき始めました。

2023 年 4 月、多摩地域交流センター開設 10 年の節目を迎え、社会課題解決を目指す「法政大学ソーシャル・イノベーションセンター(SIC)」を開設しました。この場には既存の多摩地域交流センター、多摩ボランティアセンターの機能を内包しています。

多摩地域交流センター(HUCC)の 10 年間については、本冊子巻末に概要を掲載していますので、どうぞお読みください。



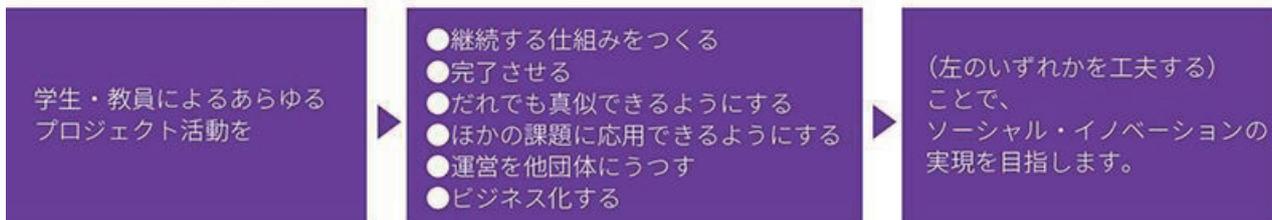
SIC の概要

多摩キャンパスは、郊外型のベッドタウンが広がる市街地エリアと、古くからの自然・伝統の残る農山村エリアの中間に位置し、キャンパスに通う中で日常的に様々な特徴を持った環境に触れることができ、全国のあらゆる社会課題を考える基本となる、数々の事例に接することができます。SIC では、この環境を最大限に生かし、「多摩キャンパス」「周辺地域」「法政スポーツ」のイノベーションに取り組みます。

意外と難しくない！ SIC が考える
ソーシャル・イノベーションとは？



SIC の事業で工夫していくポイント



SIC の特徴

SIC の特徴は、多摩地域交流センターで取り組んできた、近隣地域における学生主体の多様な連携事業を中核とするコミュニティ・ベース、スチューデント・ベースの場であることです。今後はその特徴をさらに強化しつつ、以下の取り組みを進めます。

- ・ 大学における教育活動との接続を順次強化していくことで、地域・社会におけるソーシャル・イノベーションを立ち上げ、担える人材育成に積極的に取り組みます。
- ・ トライセクター(大学・地域・外部の営利および非営利団体)連携を強化し、学生・教職員が多様な主体とソーシャル・イノベーションを生み出し、社会課題を解決に導く事業を育成、支援します。
- ・ 学内外から多様なゲストを招き、SIC の事業を語り合う<CAFE>活動をはじめ、多様な公開イベントに積極的に取り組み、キャンパス内外に、さらに豊富な知見・情報・人のネットワークを創出していきます。

SIC のミッション

法政大学ソーシャル・イノベーションセンターは、社会課題解決を、個人の利益のみならず社会全体の価値の創出を目指して、既存の解決策に比して、より効率良く、持続可能で、より高い効果をもたらす包摂的で公正な新しい解決方法で実現する「ソーシャル・イノベーション」を推進するために、以下を目的とします。

- (1) ソーシャル・イノベーションを実践しようとする「ソーシャル・イノベーション・マインド」の醸成、ソーシャル・イノベーションを実践する人材の育成・輩出を行うこと。
- (2) ソーシャル・イノベーションに関する事業や研究活動の支援を行うこと。
- (3) ソーシャル・イノベーションのためのトライセクター(大学・地域・外部の営利および非営利団体)との連携の推進を図ること。
- (4) 多摩キャンパスの活性化を図ること。

SIC 事業の 5 本柱

01. CLASS

授業・課外プログラム

授業やプログラムを通じ
ソーシャル・イノベーションを

学ぶ

02. LAB.

課外プロジェクト

プロジェクトの企画・実行を通じ
ソーシャル・イノベーションを

実践する

03. CAFE

トークセッション

さまざまな対話を通じ
ソーシャル・イノベーションで

交流する

04. EVENT

イベント

さまざまなイベントを通じ
ソーシャル・イノベーションに

参加する

05. VOLUNTEER

ボランティア

社会のニーズに応え
ソーシャル・イノベーションの
入り口に

触れる

つくり続ける～INNOVATION～

ソーシャル・イノベーションセンター(SIC)は、学生・教職員・学外の多様な主体が出会い・交わり・協力して、この場を「多摩キャンパスの顔」としてつくり続けることもミッションとしています。

■SIC 多摩産材プロジェクト



SIC 開設にあたり取り組んだのは、SIC の活動拠点に、多摩産材を用いたオリジナル什器をデザイン、製作、活用する「多摩産材プロジェクト」です。

本プロジェクトは、ソーシャル・イノベーション事業のモデル事例と位置づけ、「地産地消」「サーキュラーエコノミー」といった多摩地域における社会課題に着目しました。

そのため、多摩地域の木材を活用すべく、東京都檜原村産のスギ、ヒノキを利用した什器とし、製作にあたっては多摩産材の取り扱いに

長けている関連業者に制作を依頼し、社会の作り手たちとの学外協働を生み出しました。

また、コンセプトやデザインについては、SIC の教職員・学生スタッフの他に、デザイン工学部建築学科小堀哲夫研究室がゼミ活動の一環として制作活動に入り、学部・キャンパスを横断した、教職員×学生による学内協働を生み出しました。

こうして、本学が目指す文字通りの「実践知教育」を体現していき、その結果、2023 年 12 月には、2023 年度自由を生き抜く実践知大賞において、「持続可能なデザイン賞」を受賞しました。

表彰式の様子：



本プロジェクトの紹介動画：



什器完成・納品までのプロセスをご紹介します。

2022年6月 デザイン案の検討

当時の多摩地域交流センターを会場に、小堀哲夫ゼミの授業として、現場調査を兼ねたレイアウト・デザイン検討を実施しました。多摩地域交流センターの学生スタッフ(現 SIC 学生スタッフ)をはじめとした学生や教職員も一緒に参加し、新しい什器制作に向けた熱い議論が交わされていきました。



2023年1月 試作検証

小堀ゼミは試作検討を重ね、多摩でのフィールドサーベイを行い、森林の状況を目の当たりにし、また、素材ごとに様々な工場へ足を運んで作り手の方々と共に検討し、よりリアルな設計へとつなげつつ試作品を製作。そのお披露目と、試作検証会を開催。利用者目線として、あらためて教職員、学生スタッフなども参加して率直な意見を出し合いました。その後、完成品に向けて、レイアウト変更などを重ねていきました。



2023年5月 什器納品

完成品が納品され、センター内には、ほのかに香る木材の匂いも漂う新しい環境に生まれ変わりました。

センター内でのイベント、授業などでも利用できるよう、大型のロールスクリーンも可動式ラックに備え付けられるようになり、センターでの活動の幅が広がっています。センターを利用する学生たちも新しい什器に興味を示し、使いやすいレイアウトを様々な模索、工夫しています。



什器製作の紹介:



学ぶ～CLASS～

多摩地域の課題に触れたり、社会全般の様々な課題の解決を考えている授業やプログラムを通じて、ソーシャル・イノベーションの考え方を学んでいきます。

■SIC 関連科目群

多摩地域形成論

多摩キャンパスの4学部の学生が履修できる共通科目です。多摩キャンパス版の「法政学」として、多摩キャンパスを取り巻く地域社会(歴史・文化・経済・社会環境、そこに暮らす人たち)から、多摩の現状や課題を考えていきます。また、SICの紹介や活用方法についても、講義内で説明されます。

SIC 関連科目(2023年度)

2023年度より、ソーシャル・イノベーションに関連する科目について、「SIC 関連科目」として多摩キャンパスの学部生が受講できる仕組みを開始しています。所属学部の専門科目以外にも受講できる制度です。

<2023年度 SIC 関連科目>

ソーシャルイノベーション論	現代福祉学部
コミュニティビジネス論	現代福祉学部
ローカルイノベーション論	現代福祉学部
社会・イノベーション論 I	社会学部
コミュニティ・デザイン論 I	社会学部
日本経済論A	経済学部
日本経済論B	経済学部

SIC 共催公開授業(2023年度)

- 現代福祉学部「ソーシャルイノベーション論」公開授業
ゲスト:宮本 萌子氏(ライフイズテック株式会社)
- 社会学部「環境経済学 I」公開授業
～環境を真剣に考える 企業とエシカル就活～
ゲスト:半井 翔汰氏(株式会社 allesgood 事業統括)
- 現代福祉学部「コミュニティビジネス論」公開授業
「Kaiko Artisan の創業と自分力、コミュニティ、
そして広がる輪」
ゲスト:マイリケ 加奈子氏(Kaiko Artisan Founder)

環境を真剣に考える 企業とエシカル就活

大学で環境問題を取り組むために、社会に出た後も自分自身で考えてほしい。SDGs企業と就活生をマッチングするエシカル就活サイトの運営会社の方に、環境を真剣に考える企業の最新事情とエシカル就活サイトの立ち上げについて、お話しします。

7月14日(金) 11:00-12:50
@多摩キャンパス 社会学部棟 201教室 / ONLINE(Zoom)
※他学部生も参加歓迎

開催授業:社会学部 環境経済学 I
担当: 島本美保子
法政大学ソーシャル・イノベーションセンター (SIC) 共催

Speaker:
半井翔汰 (株式会社 allesgood 事業統括)

オンライン参加はこちら!

城西学院大学経済学部。学生時代に「トビタテ」留学 JAPAN」日本代表としてタイにビジネス留学。帰国後、大学生向けインターンシップ事業を立ち上げる。卒業後株式会社リクルートに入社し、中小企業〜上場大手企業まで多岐にわたって採用コンサルタントを務めた後、事業戦略企画室に異動し、戦略設計・シミュレーション分析・主力商品の営業業務に従事。社外では若手社会人向けにデザイン思考を取り入れたウェブデザインプログラムを開発。自身の経験を活かして社会課題に対する関心の強い中、代表職員の思いに共感しエシカル就活を運営する株式会社 allesgoodへの参画を決断。

■SIC 教育プログラム

多摩地域の課題にあらゆる切り口から触れることで、新たなプロジェクトを起こしたり、起業を目指す学生の入口として、様々な企画を開催・充実させていきます。ベース作りとなる基礎的なカリキュラムの整備に加えて、多摩キャンパスをはじめとする法政 OBOG の社会的起業の先輩たちとともに、実践的な学びと成長の機会となるようなプログラム構築を進めて行く予定です。

多摩ソーシャルイノベーションラボ(2021年度)

2021年12月に「多摩ソーシャルイノベーションラボ」と銘打ち、2回のイベント企画を行いました。

「社会や地域の課題に対して何かできないか?」「自分でやってみいたいプロジェクトがあるけど、どうしたらいいんだろう?」という思いを持っている学生と、多摩キャンパスの教員だけでなく、学外の皆さんの協力も頂きながら、一緒にアクションを起こしていこうという新たな試みです。

法政大学
Well-Being・CSR・サステナビリティ・SDGs・フェンシブ・カー・持続可能性
多摩ソーシャルイノベーションラボ
少人数のグループでの参加も大歓迎

vol.1
～地域課題解決アイデアソン編～
地域課題を解決するアイデアをたくさん考える。
2021.12.4 |sat. | 13:00-16:00
会場：多摩キャンパス 総合棟4階 多目的教室
こんな学生にオススメ! 「新しく企画を立てたり、みんなでアイデアを出し合う経験したい」「新しく何かに挑戦してみたい」
毎週新しいアイデア例：
●レンタルキッチンスタジオの活用法
●フタブリック・食り垢の活用法
●大学の廃紙、資源物アイデア
●新しいテレビ番組 ●遺物活用法

vol.2
～想いをカタチにするマイプログラム編～
自分の課題やプロジェクトを思い思いのテーマを持ち寄り、プロジェクトの進捗を確認する。
2021.12.11 |sat. | 13:00-17:00
会場：多摩キャンパス 総合棟4階 多目的教室
こんな学生にオススメ! 「既にあるアイデアを、実践させるきっかけがほしい」「既に進めているプロジェクトをさらに知識させたい」
ゲスト：
藤 芳英さん・藤原 美穂さん
株式会社 StockBase
総合大学 3 校生 club
https://www.stockbase.co.jp/

主催：法政大学 多摩ソーシャルイノベーションラボ 対象：多摩キャンパスに在籍する本学学生
協力：NPO 法人 ETIC 定員：各回 20 名程度
申込締め切り：11月30日(火) 17:00
問合せ：t-social@hosei.ac.jp 申込フォーム：https://forms.gle/X5shv4bezZFKtE

チェンジメーカーズ ラボ in 多摩(通称:たまらぼ)(2023年度)



地域や社会の課題が複雑化・多様化していく中、創造的なアイデアや行動で、現状を変えていく「Changemaker(チェンジメーカー)」が、今まさに求められています。法政大学学生を対象にした、SIC初の試みとなる100日間のプログラムを2023年度秋学期より開始しました。

プログラム：

プログラムの特徴

① 同世代コミュニティと専門家によるバックアップ

起業やチェンジメーカーになることを目指す法政大学を中心とした同世代の仲間が集い、相互に刺激を与え合いながら、課題解決への道筋を探ります。また、SICだけでなく、社会起業家を目指す若者支援に取り組む NPO 法人 ETIC.の協力を受け、皆さんのプロジェクトの加速を全面バックアップします。



② 講座やフィールドワーク、メンタリングなどからなるプログラム

プログラム参加を通じて、皆さんのプロジェクトが磨かれていきます。学んだ知識をもとに、プロジェクトを持続可能にしていくためのビジネスモデル構築や、リソース調達について学ぶチャンスです。

「起業」に向けて一歩を踏み出しはじめた学生たちの取組テーマ

- ・ 昆虫食の可能性
- ・ 伝統文化×メンタルヘルス
- ・ 空き家から始まる新たな価値
- ・ 駅と大学をつなぐ2拠点移動システム
- ・ 飲食店のエンパワメント
- ・ 承認欲求とどう向き合うか



優秀な活動に対しては大学からの支援金も！

「たまらぼ」の最終回は、TOKYO 創業ステーション TAMA/Startup Hub Tokyo を会場に、最終発表会となる DEMO DAY を3月5日に開催します。

チャレンジした学生たちの発表を受け、優秀チームに対しては、大学より奨励金が支給されます。厳正な審査を実施するため、当日は以下の方々に審査をご協力頂きます。

- ・ 秋元 祥治氏
(株式会社やろまい 代表取締役)
- ・ 北池 智一郎氏
(株式会社タウンキッチン 代表取締役)
- ・ 森林 育代氏
(株式会社シーズプレイス 代表取締役
Startup Hub Tokyo TAMA コンシェルジュ)

たまらぼ
チェンジメ-カ-クラブIN多摩
-社会を変えるチカラをつける100日間-

初代の最優秀賞は誰の手に!?

DEMO DAY

3月5日(火)
14:00-16:30
@立川
TOKYO創業ステーションTAMA
Startup Hub Tokyo

▼当日行われるピッチのテーマ

- ・ 昆虫食の可能性
- ・ 伝統文化×メンタルヘルス
- ・ 空き家から始まる新たな価値
- ・ 駅と大学をつなぐ2拠点移動システム
- ・ 飲食店のエンパワメント
- ・ 承認欲求とどう向き合うか

「起業」に向けて最初の一歩を踏み出しはじめた法政大学の学生チャレンジャー達によるプレゼンテーションイベント。

会場で、起業の「リアル」にふれるチャンスです。ふるって、ご参加ください!

DEMO DAY参加には事前申請が必要です
申込フォームなどの詳しい情報は下記QRコードのページからご確認ください
※オンライン配信あり
※現地会場では、終了後に交流会を予定しています

主催：法政大学ソーシャル・イノベーションセンター
MAIL:t-soil@ml.hosei.ac.jp

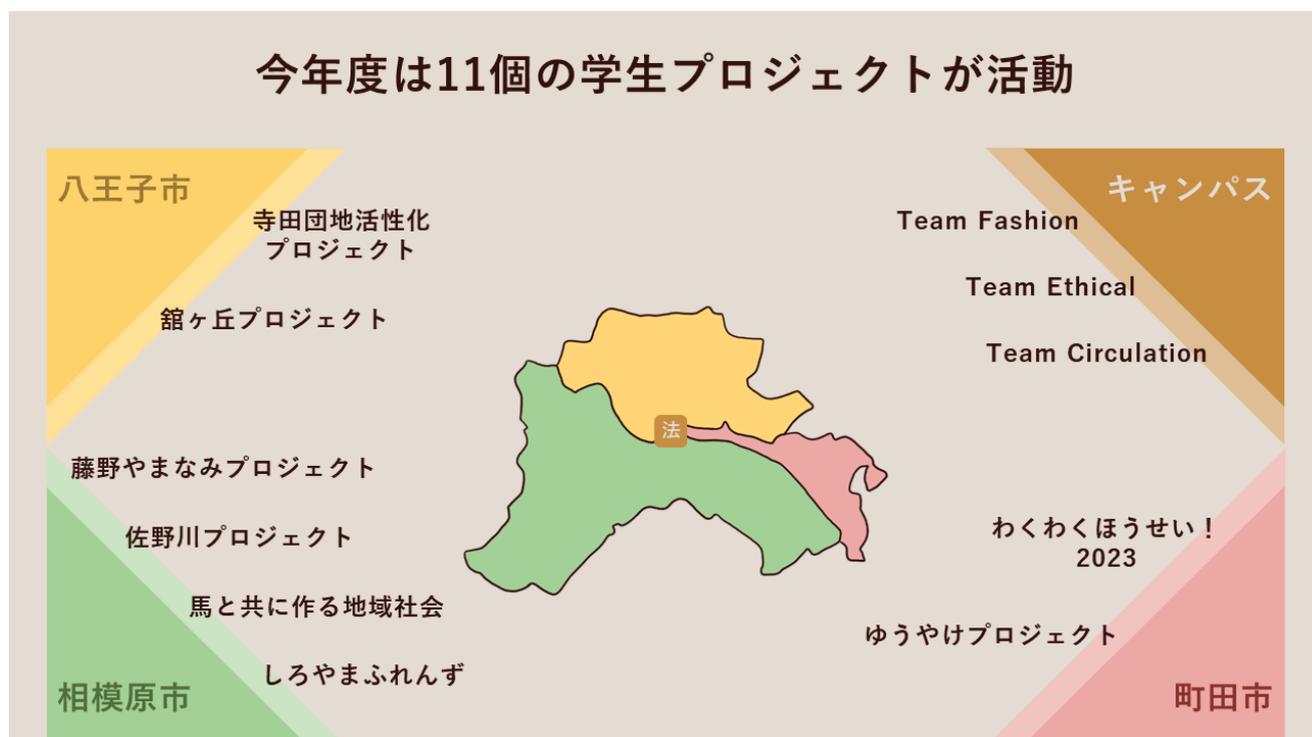
DEMO DAY 開催お知らせ:



実践する～LAB.～

プロジェクトの企画・実行を通じソーシャル・イノベーションを実践する研究やゼミ、サークルや個人での活動のうち、「多摩キャンパス」「周辺地域」「法政スポーツ」のイノベーションに関わる実践的な活動を登録すると、様々な支援を受けることができます(学生主体のプロジェクトには助成金制度あり)。テーマはそれぞれの関心に応じ、多種多様な切り口から取り組むことができます。

■学生主体のイノベーションプロジェクト(2023 年度)



学生主体のイノベーションプロジェクト・2023 年度活動概要①

SIC たまぼら・相模原市緑区藤野 藤野やまなみプロジェクト

活動内容

藤野やまなみプロジェクトは相模原市緑区を拠点とし自然共生社会の実現を目指しています。

牧野元気創生会の皆さんとやまなみ公園の整備を行ったり自然にまつわるイベントのお手伝いをしたりしています。

芝桜が咲く憩いの場

活動の魅力

緑豊かなコミュニティガーデンの中で活動することを通じて地域の人の温かさに触れられることが最大の魅力です。

活動後に公園と隣接するやまなみ温泉に入ったりお昼ご飯を食べたりすることも魅力の一つとなっています。





SIC たまぼら・相模原市緑区佐野川 佐野川プロジェクト

活動内容

高齢で耕作ができなくなった方の畑をお借りして茶畑の整備を行っています。

資金を賄うために茶葉を収穫・加工して商品として学内イベントや大学近隣地域で販売しています。

お茶で味わい豊かな経験を!!

活動の魅力

茶畑の整備、茶葉の収穫・加工し、商品化して売るという一連の工程を体験できます。

茶畑の整備活動は大変ですが商品完成時の喜びはひとしお!里山の大自然の中の作業で貴重な経験を積みませんか。





SIC たまぼら・町田市相原町 ゆうやけプロジェクト

活動内容

【高齢者向けの活動】コミュニケーションを第一にスマホの基本操作を高齢者の方に教えます!

【子ども向けの活動】放課後に小学校で子どもたちと遊んだり、学習支援をしたりしています。また、地域食堂も開催します!

近場で多世代交流

活動の魅力

ゆうやけプロジェクトの活動の魅力は、多摩キャンパスの近場で多世代交流ができることです。上記以外にもいろいろな種類の活動をしているため

多くの人の興味にあった活動がきっと見つかるはず!授業後にボランティア活動に参加したい方にもお勧めできます!





SIC たまぼら・八王子市館町 館ヶ丘プロジェクト

活動内容

多摩キャンパスから北に約1kmの所にある「館ヶ丘団地」にて住民の生活のお手伝いをしています。

地域食堂「キッチンさくら」のお手伝いや自転車に住民を乗せて移動のお手伝いをする自転車タクシーをしています。

新たな繋がりや成長の場

活動の魅力

大学から非常に近いエリアで活動するため、比較的簡単に住民と会えます!会う回数が増えると自然と会話が弾んだり

名前を覚えて下さったりして他の場所では味わえない密なコミュニケーションをとることができます。





学生主体のイノベーションプロジェクト・2023 年度活動概要②

SIC ホーセイイノベーションクラブ Team Ethical

活動内容

多摩地域で採れた食材を使った地産地消のメニューを考案・提供したり、キャンパス内で八百屋さんを開いたりすることで

学生が多摩地域の豊富な食材に触れることが出来る場を提供しています。

多摩キャン「食」改革

活動の魅力

自分達がイチから企画したイベントで成功を実感できた特に達成感を感じられます。企画者側に入ること

フードストーリーをより深く理解することができ今まで気づかなかった食の背景に出会えます。





SIC ホーセイイノベーションクラブ Team Circulation

活動内容

最近新たにできたチームで現在は本格的な活動に向けて週1回のミーティングを行っています。

今後は学生による自発的な情報交換や意見交換の場として学内にコミュニティスペースを作っていきます！

ここから始まる自分イノベーション No boundary , Do innovation

活動の魅力

最近発足したばかりのチームでイチから自分たちの手でより良い大学をつくる事を目的に活動しています。

何もない状態からのスタートで人数も少ないですがその分とてもやりがいを感じられることが魅力です♪





SIC ホーセイイノベーションクラブ Team Fashion

活動内容

私たちは、「多摩キャンパスだからこそできる伸び伸びとしたファッションの楽しみ方」を見つけ、実践しています。円形芝生での古着交換会、

多摩キャンパスの自然を生かしたファッションショー、地域における属性を超えた交流など、様々なことに取り組んでいます。

多摩キャンで 好きなファッションを、好きなだけ。

活動の魅力

何よりも、「おしゃれ」とはかけ離れたイメージを持たれる多摩キャンパスでかつては行われたことがない

あるイベント作りにはチャレンジできる場所です。自然と学生が集まってきてくれる感覚がとても楽しいです。





SIC わくわくほうせい2023

活動内容

わくわくほうせい！では多摩キャンパスの近くの子供たちをキャンパスに招待し、様々な実験やイベントを行います。

イベント内容

- ① 割れないシャボン玉
- ② 折り紙を使う実験
- ③ 象の歯磨き粉

子供たちに豊かな経験を

活動の魅力

私たちが準備した実験を子供たちと一緒に進みながら子供たちがイベントを楽しんでくれる姿を見ることができます。

イベントの最後のところで子供たちから深い質問を聞かれ、皆さんが楽しんでくれたと感じ、やりがいを感じました。





学生主体のイノベーションプロジェクト・2023 年度活動概要③

SIC

八王子市寺田団地
寺田団地活性化プロジェクト
(@団地)

活動内容

@団地は大学のすぐ近くにある「寺田団地」を中心に活動しています。主な活動日は土曜日で、事前に企画を考えて子どもたちと遊んだり、お年寄りの方と交流したりします。他にカフェのお手伝いやイベントの開催もしています。

多世帯交流 & 多世代交流

活動の魅力

私たちは多世代との交流と寺田団地全体の活性化を目標としています。まだ試行錯誤中ですがどうしたら良いか考えることも充実感があります。また、何よりメンバーの仲が良くアットホームな雰囲気も魅力の一つです。



SIC

馬と共に作る地域社会

活動内容

私たちのプロジェクトでは、馬の魅力を広げ、城山地区を盛り上げることを目標に活動しています！

メインの活動は相原幼稚園とのふれあいですが、ご要望があれば文化祭や出張も行っています！

馬と触れ合う素敵な時間

活動の魅力

私たちのプロジェクトの魅力は何とんでも馬に触れることが出来るということです。普段あまり見る機会のない馬たちを真近で見ただけでなく、馬の生態を学んだり、餌やり体験をして馬を楽しく学べます！



SIC

相模原市城山
しろやまふれんず

活動内容

「しろやまふれんず」は今年の4月に設立した新しいプロジェクトです。活動エリアは相模原市の城山地域で大学から歩いていける里山です。地域の小学校との交流、ツーリズム企画、夏祭りの運営に携わっています。

小学生と城山の魅力発信！

活動の魅力

このプロジェクトの魅力はなんといっても活動の「伸びしろ」です！これまで築き上げてきた「つながり」を生かして新たな活動に取り組んでいます。城山地域の方々との新たな「つながり」が広がっていく楽しさを実感できます。



SIC

ソーシャル・イノベーションセンター
学生スタッフ

活動内容

私たちは、主にソーシャル・イノベーションセンター(SIC)の運営を行っています。具体的には学生目線での企画運営を行い人と人の繋がりを広げるために活動しています。たくさんの方がSICと関わりを持ってもらえればと思います。

ソーシャル・イノベーションセンターの架け橋

活動の魅力

SIC自体がアットホームで学生は学部・学年で分け隔てなく自主性や向上心があるので相乗効果を生み出せる力があります！

そのため、SIC学生スタッフではさまざまな人との関わりを持てるので自分の興味関心を深めたい、新しいことを始めたい人にオススメです！！



学生主体のイノベーションプロジェクト・2023 年度活動概要④

SIC

ソーシャル・イノベーションセンター
ボランティアスタッフ

活動内容

普段から学生向けのボランティアの情報を掲示して、募集を行っています。

ボランティアスタッフでは、自ら企画したイベントを開催したり、地域のイベントにも出展したりしています。

法政の公式ボランティア

活動の魅力

属性を問わず、様々な方と交流し、ボランティアを経験することが出来ます！

他にもボランティアスタッフでは、自らやってみたく思ったボランティアをすることが出来ます！



学生主体のイノベーションプロジェクト・2023 年度活動実績

Team Fashion: コスメアートイベント

9月29日、多摩キャンパス円形芝生広場を会場に、「Team Fashion」によるコスメアートイベントを開催しました。ロスコスメに着目した学生たちは、多摩キャンパス近隣の女子美術大学「イベント部」とのコラボレーション企画として、お互いの強みを生かしたイベントを成功させることが出来ました。

このイベントは、NHK 総合『首都圏ネットワーク』内で取材・放送されました。



イベント開催記事:



Team Ethical:八百屋&スープ・スムージー企画



6月21日～23日、28日～30日に、「Team Ethical」による八百屋&スープ・スムージーの配付イベントを開催しました。八百屋企画は2022年11月に初めて開催し、学生・教職員から好評を得たことから、今年度もJA町田市(アグリハウスさかい)の協力の下、朝採れの地場野菜が多摩キャンパスまで運ばれてきました。「野菜の丸かじり」をテーマに、野菜の試食配布も行い、より新鮮な状態の地場野菜を味わう機会にもなりました。

スープ・スムージー企画については、「教員プロジェクト」の活動内でご紹介します。

イベント開催記事:



Team Fashion:古着交換会イベント

6月19日～21日に多摩キャンパス円形芝生を会場に、「Team Fashion」による古着交換会を開催しました。今回の企画では、学生や教職員に持ち寄って頂いた古着を使って、Team Fashion が秋に予定しているファッションショーに向けてリメイクする新たな活用につなげていきます。「古着」をキーワードに、新たなコミュニケーションの場が生まれるきっかけにもなっていました。



イベント開催記事:



Team Fashion:ファッションショー「ほしあつめ」

12月1日、多摩キャンパス円形芝生広場を会場に、夜のファッションショー「ほしあつめ」を開催しました。日没後、夜の雰囲気変わった18時半過ぎから開催されたイベントですが、事前にお声掛けした近隣地域のほか、帰りがけの学生もイベントに興味を示して集まり、約100名の観衆を集めて盛大に開催されました。

2022年度に続く今回の開催では、多摩キャンパスを拠点とするバンドサークルにも協力してもらい、生演奏でのウォークを取り入れるなど、より本格的なファッションショーとなりました。これまでの活動で集めた古着をリメイクし、デザインやメイクも学生たちの手で行われ、集まった観衆たちも盛大な拍手で応えていました。



イベント開催記事:



ゆうやけプロジェクト:りびんぐ@町田市立小中一貫ゆくのき学園



12月10日、学生と子どもの交流企画『りびんぐ』が開催されました。年4回予定される中の3回目となる今回は、クリスマスバージョンでした。子どもたちと学生20名が参加し、前半は松ぼっくりを使ったクリスマスツリーづくりで、学生が集めたモールやビーズやキャップやシールなどカラフルな素材を使い、子どもたちは1つ2つと夢中で製作していました。後半は学生のサンタクロースが登場し、お持ち帰り用のお菓子がプレゼントされ、子どもたちから歓声があがりました。終了後の振り返りでは、子どもたち

と仲良く交流できた手応えが語られ、充実したイベントとなりました。

佐野川プロジェクト:「佐野川学生茶」ができました

相模原市緑区佐野川の美しい景観を守るため10年以上、耕作放棄地となった茶畑を丁寧に耕して「佐野川学生茶」ができました。商品化して2年、今年度は206袋を生産し、大学祭や各地域(館ヶ丘団地、若葉台住宅等)のイベントに積極的に出店し、販売しています。

佐野川茶は生産者が片手で数えられるほどの希少なブランドで、「佐野川学生茶」を通じて、この伝統の味を学生が広く伝えています。

なお、パッケージは、ホーセイノバージョンクラブ4年生の学生が担当したオリジナルデザインです。



館ヶ丘プロジェクト:館ヶ丘自治会 秋祭りに参画@館ヶ丘団地



11月23日に八王子市の館ヶ丘団地では、自治会主催の秋祭りが開催され、春祭りに続き、館ヶ丘プロジェクトも射的やスーパーボールすくいなど、お祭り屋台ならぬブースを出して盛り上げました。日常的に自転車タクシーや地域食堂、子ども食堂、八王子市立館ヶ丘小学校でのボランティアを行っているため、学生がブースを出すと、顔なじみの地域の方々や子どもたちから次々と声をかけられます。お祭り来場者は500名以上。この日は近隣保育園や拓殖大学などもイベントを行っていたため、商店街広場だけでなく、館ヶ丘団地周辺がよりたくさんの人出となり、賑わいました。

藤野やまなみプロジェクト:やまなみ公園づくりは15年目に！

2009年から活動を開始した旧藤野町牧野地区でのやまなみ公園づくりは今年で15年目を迎えました。開始当時から変わらず、牧野元気創生会の皆さんと共に月2回の活動を続け、当初の鬱蒼とした丘が今では、春に一面の芝桜、初夏は白や桃色のアジサイが見頃を迎える美しい公園になりました。知る人ぞ知る秘境のような場所に、遠方からも足を運ぶ方が多くいます。

今年度はこの公園の魅力を発信するため、ドローン撮影を行ったり、SICカフェの講座を行うなど、新しい試みにも挑戦しています。年度末には魅力発信のフリーペーパーの発行も予定しています。



寺田団地活性化プロジェクト:横断幕づくり&ハロウィン開催



10月28日、「@団地」が2016年に『グリーンヒルおひさま広場』開設記念として地域の子どもたちと描いた横断幕を7年ぶりに新しくするべく、ハロウィンと合わせてイベントを行いました。数か月前から備品の購入や、学生のいくつかのデザイン画を地域の方に見せ、希望をお聞きし、前日には空き店舗を掃除して白幕をセッティングするなど準備を重ねました。

当日は団地に越したばかりの若い子育て世代や、@団地の月イチ『お楽しみ day』に参加している子どもたちが参加し、おひさまとおひさまカフェの黒猫のロゴがグラデーションで描かれた明るい横断幕が出来上がりました。UR都市機構の協力で、2024年1月から団地の歩道橋に大きく設置されています。午後は、子どもたちが団

地内を探検してクイズを解き、お菓子をもらうハロウィンラリーを行い、大学生と楽しい1日を過ごしました。

しろやまふれんず:広田小学校で「サンタ de コンサート」開催

12月16日に今年度設立された「しろやまふれんず」が“サンタ de コンサート”を相模原市立広田小学校で開催しました。子ども、保護者、地域の方、先生方、学生の総勢40名で「クリスマスに欲しいもの」の自己紹介からイス取りゲーム、学生のピアノ伴奏に合わせてクリスマスソングを歌い、最後はカードづくりと、多世代で賑やかに盛り上がった1日になりました。

これまで、4年生の総合的な学習の時間に参加し、里山の魅力発信を小-大連携で行って来ており、当日は担任の先生も顔を出して下さいました。また相模原市と城山観光協会の協働事業 e-bike ツーリズム実行委員会の方々もご参加下さるなど1年間の締めくくりにあつたご縁ある方々と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

このイベントは2022年度まで活動していた「つながりプロジェクト」から続く学生主催行事で、子どもたちが家々を巡り玄関コンサートを行うバージョンや、地域の方のご自宅ガレージで開かれるクリスマスコンサートバージョン、お寺で開催など、その年により形を変えながら7年間継続されています。



Team circulation:12月の夜空の下で、映画上映会!



12月14日夜、多摩キャンパス内の円形芝生広場に大きなスクリーンを設置してみんなで映画を鑑賞する映画上映会を開催しました。今年度新設した秋チャレ助成金制度に採択された「ホーセイノベーションクラブ Team circulation」が主催し、多摩キャンパスをもっと楽しく!学生の可能性を広げる機会作りをテーマに初の大型イベントとして行いました。当日はかなりの冷え込みの中、ホーセイノベーションクラブの Team fashion、Team Ethical からブースを出し、ランタンが光る芝生に立ち

寄った学生たちが映画に見入ったり、珈琲を片手に会話を楽しんだり、非日常で記憶に残る時間を過ごしました。終わってみると来場者は延べ100名以上となり、Team circulation 一同は、最高のイベントだったと開催出来たことを喜び合いました。

教員主体のイノベーションプロジェクト スポーツブランディングラボ

【担当教員:泉重樹(スポーツ健康学部)、諸上茂光(社会学部)】

法政パワースープ・スムージー企画

6月21~23日と28~30日に「法政パワースープ&パワースムージー」の配布イベントをSIC学生プロジェクト「Team Ethical」とのコラボにより開催しました。食材はJA町田市から仕入れ、調理は多摩キャンパス内で営業するローワールドカフェが行い、現代福祉学部佐野竜平ゼミが協力して竹ストローを用意しました。スープ/スムージーの監修はスポーツ健康学部卒業生の管理栄養士(神野温子氏)が携わるスペシャルな一品となりました。



イベント開催記事:



法政パワー豚汁配布企画イベント

11月29日~12月1日に「法政パワースープ(豚汁)」の無料配布イベントを開催しました。6月のイベントと同様に、SIC学生プロジェクト「Team Ethical」が協力し、スポーツ健康学部卒業生の管理栄養士(神野温子氏)の監修のもと、身体が温まる豚汁が完成しました。

また、この企画を通して、箱根駅伝に出場する陸上競技部への応援メッセージを襷に寄せ書きしてもらったり、多摩オープンキャンパスリーダーズの学生たちも配布に協力したり、当日の様子をInstagramに投稿するなど、「スポーツ」を通じたコミュニケーションの場になりました。



イベント開催記事:

「CAMP in Campus」実証実験 【担当教員:水野雅男(現代福祉学部)】

現代福祉学部水野雅男研究室では、自然災害時の避難生活の代替案として、大学キャンパスで野営することを提案し、2020年度より多摩キャンパスを会場に「CAMP in Campus」実証実験を重ねています。





8月18日～20日にかけて実施した実証実験では、夏休み期間として初めての開催となり、実施期間中も厳しい暑さとも共存しながらの実験になりました。炎天下におけるテントの有効性や、参加者の健康状況を逐次把握するなど、実証実験でないと得られないデータも収集していきました。この回には、相模原市議4名も含む30名の参加者が、2泊3日の時間を過ごしました。

8月実証実験実施記事:



また、11月17日～19日には秋の実証実験を開催しました。8月の実証実験とは異なり、朝晩の冷え込みや強風など初冬に向かっていく季節特有の課題がありましたが、今回はペット同伴家族の受け入れと滞在エリアの拡張、水の濾過装置を開発したベンチャー企業による足湯の設置など、実証実験期間を生かしたモニタリングを実施していきました。期間中には八王子市、相模原市の関係者のほか、他大学からの視察もあり、約40名が参加しました。



法政馬糞で地域をつなぐ【担当教員:高見京太(スポーツ健康学部)】

多摩キャンパス・城山校地の体育会馬術部の馬場において、江戸東京野菜の栽培・収穫を通して、キャンパス周辺の関係者を巻き込んだ活動を、現代福祉学部佐野竜平ゼミの学生とスポーツ健康学部高見京太ゼミの学生を中心に実施しました。

この活動は、馬糞堆肥と江戸東京野菜の文化と技術の継承、宣伝、普及活動に焦点を当て、これらを具体的にどのように展開していくかを検討しました。同時に、馬糞堆肥と江戸東京野菜の組み合わせがコミュニティにどのように新しい活力をもたらすかを検証し、今後の課題を把握する機会となりました。



交流する～CAFÉ～

学生の学びや教職員による教育研究、課外のプロジェクト活動の、ソーシャル・イノベーションへの理解を深めるきっかけとして、SIC を会場に「CAFÉ(カフェ)」活動を開始しています。各方面の専門家をゲストにお招きして、スライドレクチャーやトークセッションをして頂き、参加者と交流したりオンラインで配信したりと、人々をつなぎ、気軽に「ソーシャル・イノベーション」の入口に触れられる活動です。

新歓 WEEKS(特別 Ver.)SIC café

(4月10日・12日・14日・18日・20日)

新入生に限らず、新2年生以上の、新たに何か始めたい学生に向けて、4月中は「新歓 WEEKS」としてSICの活動や、様々なプロジェクト活動を紹介する新歓イベントを開催しました。その一環として、お昼休みにSICで開催する「café(カフェ)」を開催し、トークセッション形式で先輩スタッフがSICを紹介しました。



新歓WEEKS特別Ver. /
SIC Cafe
ソーシャル・イノベーションセンターとは
今年度から本格始動のSIC Café
新歓WEEKS特別Ver.として、
SICとはどんなセンターなのか、どのように使えるのかなどを
より詳しく説明する会を、全5回開催します。
お昼ご飯を食べながら、ゆるくご参加ください！

4/10 Mon.	4/12 Wed.	4/14 Fri.
4/18 Tue.	4/20 Thu.	

各回、昼休み (13:00-13:30)
@総合棟2F ソーシャル・イノベーションセンター

SIC カフェ～地球環境シリーズ#1 「情報社会と昆虫観察」～

(7月5日)

記念すべき第1回目の開催は相模原市緑区の津久井地区を活動拠点としている昆虫写真家・安川源通氏をゲストにお招きし、学生以外にもキャンパス近隣の住民など、約20名が参加しました。

昨年度、安川氏が開催する教室にSIC学生プロジェクト団体「藤野やまなみプロジェクト」に所属している学生が参加したことがきっかけで、SICでの開催する講座(カフェ企画)にお招きしました。生物多様性の考え方の解説から始まった講座は、昆虫の擬態を写真から見つけるクイズ形式に移り、参加者とも双方向の対話が図れる盛会となりました。



カフェ開催記事: 

SIC カフェ～地球環境シリーズ#2

「次世代のキーワード 生物多様性を考える」～ (7月13日)

本学社会学部卒業生の公益財団法人日本自然保護協会・原田和樹氏をゲストにお招きし、社会学部糸久正人ゼミの公開ゼミと兼ねて、ゼミ生やSICで活動する学生など約30名が参加しました。メーカーの営業職から公益財団法人へ転職された原田氏。現在の業務をはじめ、普段耳にする「生物多様性」をキーワードに、これから我々の生活にどのような影響があるのか、我々がどのような形で貢献出来るのかなど分かりやすく解説して頂き、参加者からの質疑や意見交換が積極的に行われました。



カフェ開催記事:



SIC カフェ#3 ～多摩地域形成論の続きを語ろう！～ (10月25日)

八王子市役所で市街地活性化を推進する川上寧子氏、八王子市内で「居場所づくり」の実践に取り組む鎌田菜穂子氏(NPO 法人 ツナグバツクリ)、沼崎道子氏(まほうのほうき)をゲストにお招きし、秋学期水曜日4時限に開講している「多摩地域形成論」の延長戦として開催しました。多摩地域形成論受講学生や、SICで活動する学生、多摩キャンパス近隣の館ヶ丘団地の住民など10名が参加しました。



カフェ開催記事:



SIC カフェ#4 ～多摩地域形成論の続きを語ろうⅡ～ (11月22日)

八王子市第1層生活支援コーディネーターの今泉靖徳氏をゲストにお招きし、同日の多摩地域形成論の“続き”として開催しました。今泉氏の活動の舞台である館ヶ丘団地を活動拠点とするSIC学生プロジェクト「館ヶ丘プロジェクト」などSICで活動する学生たちや、多摩地域形成論での講義を受けてSICカフェにも駆け付けた学生のほか、八王子市内でNPO活動をする方や中間支援として学生活動を支援する立場の方など12名が参加しました。



カフェ開催記事:



SIC カフェ#5 ～多摩キャンのスポーツを語ろう！～（12月8日）

日本郵政株式会社スポーツ&コミュニケーション部の千葉岳志氏をゲストにお招きし、スポーツと地域活性化や多摩キャンパスのスポーツをテーマに開催し、日本郵政グループ女子陸上部のブランディング分析や社内で広く活用できるロゴの新設など、スポーツを基軸とした様々な施策を紹介頂きました。

SIC で活動する教員プロジェクト「スポーツブランディングラボ(SBL)」も今回の SIC カフェの共催として加わり、特に多摩キャンパスにおけるスポーツと学生を巻き込んだ活動への様々な意見交換が参加者たちで交わされました。



カフェ開催記事: 

参加する～EVENT～

SIC では、様々な主催イベントを通して、学生・教職員・近隣住民など外部の皆様とソーシャル・イノベーションを感じて頂く機会を設けています。

第 39 回多摩シンポジウム

「南極から迫る気候変動～SDGs 私たちにできることを考える～」

(11月3日)

多摩シンポジウムは、近隣地域への知的貢献および地域社会との連携を目的として、本学の教育研究を生かしたテーマで開催しています。

39 回目となる今年度の多摩シンポジウムは、「気候変動」をテーマに、第 63 次南極越冬隊隊長を務められた本学社会学部の澤柿教伸教授と、気候変動枠組条約締約国会議(COP)で活躍されている WWF ジャパンの小西雅子氏をゲストにお招きし、講演とパネルディスカッションを実施しました。

澤柿教授からは、南極越冬隊隊長として過ごされた南極の様子や、本学が掲げる「実践知」と絡めながら、リベラルアーツをキーワードに多様な視点を持って考えていく必要性をお話頂きました。小西氏からは、COP28 を目前にしたタイミングで気候危機をめぐる政策的な展開について、科学的な知見や COP28 開催に向けた注目点についてご講演頂きました。



シンポジウム開催記事：



多摩オープンキャンパスにて SIC の活動紹介 (8月5日・11日)

多摩キャンパスで開催されたオープンキャンパスにおいて、SIC の活動紹介を実施しました。

法政大学のオープンキャンパスは学生スタッフが主体となって企画・運営されており、SIC から学生スタッフや学生プロジェクトのリーダーなどが参加し、「“多摩キャンパス”をめいっぱい楽しむ！」をテーマに、近隣地域に入っのプロジェクト活動や、ボランティア活動などをポスター展示、学生が撮影・編集したドローン動画などを通して、日常の活動の様子を紹介しました。



ホームページ記事：



SIC 学生プロジェクト 中間報告会 (10月7日)

SIC に所属する学生プロジェクトの中間報告会を開催しました。

学生プロジェクトは年度初めに助成金申請の審査を受け、1年間の活動を行います。今回は、プロジェクト化を目指して秋学期から助成金を受けて活動するチームや、旧多摩ボランティアセンターから SIC に移行して活動している学生ボランティアスタッフも参加し、SIC で学生たちが幅広く活動している様子を知りあいました。また、後半はワークショップを通して、SIC に移行してからの半年間を振り返り、教職員／学生の立場を越えて意見を交わしました。



ホームページ記事:



第42回多摩キャンパスコンサート (12月2日)

本コンサートは毎年恒例の地域イベントとして、近隣の方より好評頂いており、厳正なる抽選の結果、約120名の方にご来場頂きました。

今回は世界的にも珍しいプロのサクソフォーン8重奏団「Saxaccord(サクサコール)」をお迎えしました。行進曲「威風堂々」、バレエ音楽「くるみ割り人形」、クイーンメドレー、映画「リトル・マーメイド」メドレーや「ニュー・シネマ・パラダイス」メドレーなどの名曲が演奏されました。また、アンコールでは美空ひばりメドレーも披露。幅広いジャンルを迫力ある8重奏で演奏され、来場された方々も大変楽しまれました。



ホームページ記事:



地域交流 DAY (2024年2月23日)

学生プロジェクトの年度末の活動報告会として開催するイベントが「地域交流 DAY」です。SIC で活動する学生たちのほか、SIC 運営委員や学生の活動に協力頂いている地域の方々とのワークショップも交え、次年度の活動に生かす大きなイベントです。

2023年度の地域交流 DAY は、SIC 開設初年度であることから、「SIC 開設記念」として本学廣瀬克哉総長をお招きし、本学におけるソーシャル・イノベーションに向けた展望などをお話頂くほか、SIC における様々な取り組みをご紹介します。

SIC 開設記念
地域交流 DAY 2023

2024.2.23 fri. 13:00-16:30
会場：法政大学多摩キャンパス10号館102教室

主催：法政大学ソーシャル・イノベーションセンター (SIC)
お問い合わせ：MAIL sic@ml.hosei.ac.jp
TEL 042-783-3014
WEB <https://www.hosei.ac.jp/sic/>

第1部 SIC 新規事業紹介
教員プロジェクト活動紹介
SIC 学生スタッフ活動報告

第2部 学生による地域プロジェクト報告

第3部 事例紹介・パネルディスカッション
終了後、1時間程度の懇親会を予定

申込締切 2/21 (水) 締め切り
SIC の Web サイトもしくは
右の QR コードより詳細を
ご確認ください

触れる～VOLUNTEER～

SIC では、多摩ボランティアセンターの機能も含めて、活動しています。近隣地域からのボランティア情報を集約し、ボランティア活動に興味関心のある多摩キャンパスの学生に対しての情報提供や、仲介対応を行っています。

また、多摩ボランティアセンター時代から活動する、学生ボランティアスタッフによるボランティアイベントへの参画も実施しており、他大学の学生や近隣地域の住民の方々との交流の窓口役としても活躍しています。

■学生ボランティアスタッフによる 2023 年度活動事例①

:地域イベントへの参加

第 18 回★学生天国★ (5月14日)

大学コンソーシアム八王子に加盟している 25 大学等に所属するサークルやゼミが、日ごろの活動や研究の成果を披露するイベント「第 18 回★学生天国★」に参加。「身近なもので作れる防災グッズ作り」をテーマに、ワークショップ形式で、新聞紙やキッチンペーパー、ゴミ袋を利用した災害時・緊急時に使えるスリッパやマスク、レインコートの作り方を来場者の方にレクチャーしていきました。

ホームページ記事:



境川クリーンアップ作戦 (5月28日)

町田市と相模原市の間を流れる境川の清掃を通じて、地域の人と人とのつながりを創生するプロジェクト「境川クリーンアップ作戦」に参加。相模原市橋本にかかる寿橋付近の清掃を担当し、活動を通じて地域の方々との交流を深め、ゴミ問題に対する意識を新たにしました。

ホームページ記事:



つながりマルシェ (10月14日)

さがまち学生 Club が主催する地域活性化イベント「つながりマルシェ」に参加。相模原・町田で地域活動を行う学生団体が 10 団体参加し、日ごろの活動を生かした企画を実施しました。「防災ゲームで盛り上がり！」をテーマに、防災カードゲーム「なまずの学校」を実際に体験できるワークショップを実施しました。カードと紙芝居を使用した、小さな子どもでも楽しめる防災クイズゲームで、より多くの人に楽しんでもらうため、オリジナルルールの設定や、防災に関するアンケートを実施するなど様々な工夫を凝らし、ブースには 80 名が訪れました。



ホームページ記事:



相原スポーツ広場 FUNDAY「走り方教室」(11月3日)

町田市相原中央公園内にあるスポーツ広場で開催されたスポーツイベント「相原スポーツ広場 FUN DAY」に参加。子どもたちに正しい走り方を教える「走り方教室」のブースの受付業務を担当し、第二陸上競技部の学生による熱心な指導で、たくさんのおともたちが楽しそうに走り回っていました。



ホームページ記事: 

まちカフェ (12月2日)

町田市役所で開催された「市民協働フェスティバル『まちカフェ!』」に参加。町田市内で活動する NPO 法人や市民活動団体、地域活動(町内会・自治会)などが一堂に集い、活動発表などを通じて交流を深めるためのイベントです。8 回目の参加となる今回は、遊びながら防災について学べる「なまずの学校」の体験ワークショップのブースを出展。多くの方に楽しんでご参加頂けるよう、学生たちはオリジナルのルールを設けるなど工夫を凝らし、お子様連れのご家族を中心に、防災時の対応をクイズで出題しました。ブースは入れ替わり 40 組以上に参加して頂き、大変盛況でした。



町田市内の活動団体が一堂に会する大きなイベントということもあり、例年参加している学生は地域の方に声をかけられるなど、ブース出展だけでなく他団体の企画に参加することもでき、充実した経験を得ることができました。

ホームページ記事: 

■ボランティア学生スタッフによる 2023 年度活動事例② :主催イベント(主に相原地区協議会大学連携事業)の企画・実施 竹カフェ～法大生と取り組む防災～ (9月23日)

相原地区と法大生の交流イベント(通称「竹カフェ」)にキャンパス近隣地域から 17 名、学生スタッフ 5 名が参加。「法大生と取り組む防災」をテーマに、防災食の試食会や災害協力シミュレーションゲームを実施。防災食の試食会では、アルファ米を使用したカレーや携帯できるおにぎり、長期間保存できるポテトチップスなど、普段なかなか食べる機会のない防災食を数種類用意しました。「思っていたよりもおいしかった。」という驚きの声が多く聞こえ、貴重な機会となりました。災害協力シミュレーションゲームでは、神戸市が公開しているカードゲーム型の防災訓練教材「ダイレクトロード【内陸の町】」を使用。それぞれチームに分かれて、災害時の対応方法や情報共有の重要性について学びました。



ホームページ記事: 

多摩地域交流センター(HUCC)の10年

SICの母体となる、多摩地域交流センターは2013年4月に多摩キャンパスに開設されました。当時のキーワードは、「開かれた知と学び～地域まるごとキャンパス～」。

開かれた知と学び ～地域まるごとキャンパス～

法政大学多摩キャンパスは、開設以来「地域社会と大学の共生」、「地域に開かれた大学」を目指してまいりましたが、2013年4月、地域と大学の交流・連携を深め、強めるために、「多摩地域交流センター」を開設しました。本センターでは、近隣地域の取り組みや、その課題解決に参加することを通じて、学生の成長やキャリア形成をはかるとともに、大学の社会貢献につとめます。また、近隣地域と本学の各種活動や事業を双方向に告知し、人の交わりを促進することで、地域と大学双方の発展につとめます。

多摩地域交流センター(HUCC)のミッション

- (1) 地域づくり・課題解決の活動を通じて学生の教育・成長を図ります。
- (2) 学生・教職員・地域の人々の交流・連携を促進し、地域とキャンパスの活性化を図ります。
- (3) 法政大学多摩キャンパスの社会貢献を推進し、地域社会の発展に寄与します。

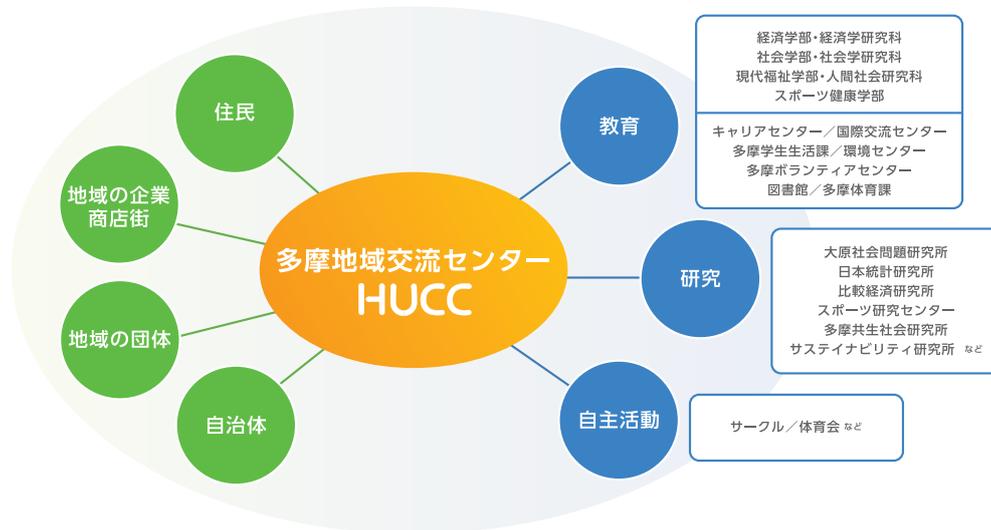
多摩地域交流センターでは、学生の「地域まるごとキャンパス」での学びを支援します。世代を超えてたくさんの人と出会い、ともに活動する経験を通して、社会との繋がりが豊かな「開かれた知と学び」を、力あわせて創造・実践していきたいと考えています。



開設当時の HUCC リーフレットより

近隣地域

法政大学



地域のみなさまへ

法政大学多摩地域交流センターは、多摩キャンパス近隣地域と法政大学との交流・連携に関して下記の内容による各種事業の支援、情報提供などを行います。どうぞお気軽にご相談・ご来室下さい。

- 近隣地域における、本学との交流・連携に関する要請・要望の受付・相談業務
- 近隣地域社会の課題への協働的取り組み
- 学生による地域活動づくりの支援
- 地域における企画に関する学内への広報業務
- 大学の地域交流・連携の企画化および広報業務

学生・教職員のみなさんへ

法政大学多摩地域交流センターは、法政大学と多摩キャンパス近隣地域との交流・連携に関する各種事業の支援、情報提供などを行います。

学生の皆さんには、講義やゼミの枠をこえて、自主的な学びと活動を積極的に創出し、人と自然と歴史豊かな多摩キャンパスらしいキャリア形成を、ぜひ主体的にはかってほしいと願っています。本センターでは、情報提供、コーディネート、活動への助言など、さまざまな課題を皆さんと一緒に解決していきたいと思っておりますので、以下のような時に、ぜひ気軽に立ち寄ってください。

- あらたな地域交流・連携活動づくりの相談・援助
- 既存の地域交流・連携活動に関する相談・援助
- 各種活動・企画の近隣地域への発信・広報に関する相談
- 学内外の関連団体・活動のネットワークに関する情報提供

教職員の皆さんには、次のような時に積極的に活用していただければ幸いです。お気軽にご相談下さい。

- 研究活動、ゼミ等の研究フィールドに関する相談
- 各種プロジェクト・企画の連携先・ご協力者に関する情報提供
- 各種企画の近隣地域への広報活動に関する協力

< 使命 >

大学と地域の信頼・連携
学生の学習・育成

促進・寄与

< 職務 >

大学と地域、双方のニーズ
マッチング・調整
学内の断片的情報・活動の
共有化・集積化
事業実施のための学内調整
学生の支援・フォロー
地域の情報収集
学内外への広報

開設当時の HUCC リーフレットより

■法政大学ーUR 都市機構ー八王子市との協定・連携プロジェクト 事例:グリーンヒル寺田の団地活性化プロジェクト

本プロジェクトは多摩地域交流センター開設時の大型プロジェクトとして、現代福祉学部の保井美樹教授をリーダーに 2014 年に発足しました。『法政大学×地域 コミュニティ再生の連続ワークショップ』(5~7月の計4回実施)を経て、八王子市のUR 団地グリーンヒル寺田の空き店舗で活動がスタートしました。

グリーンヒル寺田は 1980 年入居開始の緑豊かな郊外団地で、高齢化、空き家化、商店街の衰退、分譲と賃貸棟との分断が課題として上がっていました。

2014 年 11 月に、第 1 回交流イベント『おいでよ!アツとほーむ~持ち寄り晩ごはん』を開催し、電気・水道・ガスの無い空き店舗に 250 名が集い交流しました。予想を上回る参加者に大きな可能性を見出し、学生の力を団地活性化へ活かすことを決め、以降、自治会、活性化の会、包括支援センター、UR 都市機構、すでに月 1 回の活動をしていた学生団体カフェ部や@団地、さらに保井美樹ゼミが連携し本格的に活動を開始しました。団地の地域行事に参加し、『持ち寄り晩ごはん』や、流しそうめん、マルシェ、夏祭りなどを開催し、時には空き店舗内で寺田の歴史や、地域づくりを考える『おひさま講座』を HUCC 主催で連続開催しました。今現在も続く、経済学部藤田貢崇教授の「星空探検隊」もこの時期から始まっています。



グリーンヒル寺田・商店街の一角で
みんなの居場所づくり
が
はじまります

法政大学-UR 都市機構-八王子市は、
グリーンヒル寺田団地の活性化推進に関する
連携において、三者協定を結びました。

それを受け、
UR 都市機構による 基礎改修工事が行われました。
生まれ変わったこの場所で、
みんなの居場所づくり・多世代交流拠点への活動がスタートします!!

また、2014 年から住民の方と共に
法政大学の学生プロジェクトやゼミによる
「多世代交流イベント」「カフェ」「オープンゼミ」などが
実施されてきました。(※別パネルで紹介いたします)

秋以降の段階的オープンに向け、
さらにパワーアップして、寺田での活動を展開します。
みなさま、ぜひご参加ください!

現在は、試行期間として
これまで空き店舗を利用していた団体による暫定的なオープンとなります。
利用規程等が決まりましたら、
みなさまにも、コミュニティスペースとしてひらいていきます。

グリーンヒル寺田における『協働のまちづくり』を
住民のみなさんと一緒に進めていきたいと思っております!!
どうぞよろしく願っています。

独立行政法人都市再生機構
東日本賃貸住宅本部
法政大学 多摩地域交流センター
電話: 042-783-3014

2016 年 3 月、多世代が集うコミュニティづくりの可能性が見えてきたことから、八王子市ーUR 都市機構ー法政大学の三者で、高齢者から子どもまで幅広い世代が集い安心して暮らしていける「活気ある魅力あふれるまち」の実現を目指し、「グリーンヒル寺田団地における連携・協力に関する協定」を締結し、その拠点として商店街の空き店舗をコミュニティスペースとして再生することになりました。

■地域×学生交流イベント:たままち日和(2015～2019)

多摩地域交流センターが開設して 1 年半、各地域での活動が活発になったところで、学生プロジェクトの横断的な連携と、地域間のつながり、世代や立場の違いを越えて語り合う場として『たままち日和』はスタートしました。“地域×学生文化祭+大型ワークショップ”を開催してきました。

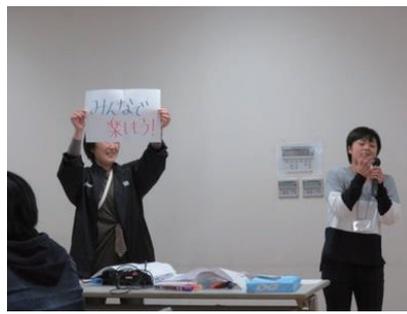
第 1 回 2015 年@法政大学多摩キャンパス EGG DOME

第 1 回は法政大学で開催しました。第 1 部は『ワクワクキャンパス交流体験』と題し、40 名の地域の方と学生が学食を味わい、よさこいパフォーマンスを鑑賞し、さらに特別授業として 関司直也センター長(当時)の挨拶に続き、現代福祉学部保井美樹教授の講義を熱心に受講頂きました。第 2 部は『明日を変える！タマトーク』と題し、学生 25 名が加わり 10 のグループに分かれてワークショップを行いました。全体進行を 3 年生が担い、各テーブルにも実行委員の学生が 1 名ずつ入り、アイスブレイクや地域紹介を通して知り合い、活動の楽しさや苦勞を本音で語り合いました。課題を共有すると、各地で同じ悩みのあることも見えてきて、対話も熱くなりました。参加者 44 名のアンケートからは 41 名が「参加して良かった」と回答され、「大学が中心となって地域、人をつなぐのもありだと思った」「地域の方とここまで話込める機会はそうない、自身は活動にブランクがあったがやる気が出た」「学生ファシリテーターがしっかり準備している印象があった」など、5 月から準備してきた実行委員をはじめ、日々地域活動を実践する学生、HUCC の役割を評価して頂くコメントが集まりました。また、この関心のネットワーク形成に手応えを感じる事が出来ました。



第 2 回 2016 年@グリーンヒル寺田 寺田だよ、全員集合

第 2 回は、八王子市グリーンヒル寺田で『グリーンヒルおひさま広場』オープニングセレモニーと合わせて開催しました。午前中は「寺田 DE おえかき」と題して 8m の横断幕に子どもたちと絵を描き、また学生 9 プロジェクトの活動の展示・発表・販売を行い、午後は『ここからはじまる明日のプラン』と題して 70 名のワークショップを行いました。“おひさまバースデーカフェ”や“対象ごとの寺田プラン～体操教室”など、この時のアイデアがその後実現するケースや、“寺田星(ひかり)巡り”など実現化に向けての話し合いが行われる魅力的なプランが寺田地域の方と学生の協働で生まれました。



第3回 2017年@館ヶ丘団地

～世代を超えた University, Senior, Junior～

秋晴れの11月、館ヶ丘団地にて第3回『たままち日和』が開催されました。午前中の第1部は“ふらっと魅せます、たてがおか祭り”と題し、団地の住民サークル(グラウンドゴルフ、手話ダンス、ちぎり絵、盆踊り)へ学生が飛び入り参加し、馴染みの方だけでなく、初対面の地域の方とも交流しました。昼食は、地域食堂のオープンへ向けて動き出されていた「団地応援隊」の皆さんから、おむすびと豚汁が振る舞われ、学生は地域の食を支える頼もしい存在を肌で感じる事が出来ました(その後『たてキッチンさくら』開設)。午後は、まごころ保育園の体育館をお借りして、70名の大型ワークショップ“学生×地域で話そう ちょっと大きめの井戸端会議”をHUCC学生スタッフの1年生を全体ファシリテーターに行いました。7月から準備をして臨んだこの話し合いでは、自分にとってボランティアとは? という価値観の共有から、団地の課題解決のためのプラン作成まで、9グループで活発な意見が交わされました。「学生と地域の方が手を取合う町計画」「危険ハザードマップ」「孤立のない地域に」「坂回避」などの課題解決のアイデアが挙がり、改めて地域で世代を越えて自分たちで動こう、という気運が高まる機会となりました。



第4回 2018年@城山地域

城 show 起龍 モリモリワクワク

城北・小松地区を会場にした4回目のたままち日和。「城山」の魅力を示し(show)、地域の伝説で伝わる「龍」を「起こす」ように地域を元気にすることを目指し、伝統文化体験コース(しめ縄、おはやし、縄文体験、イノシシ猟)を実施し、住民の方々と学生で今後の連携を考えるワークショップを開催しました。

「歴史・伝統」を守り続けている方々に若者が接する機会を作ることができ、地域の方々からは大変喜ばれ、開催後の学生からは「もっと城山のことを知りたい、城山の人と話したい」という感想が続々と出ていました。

たままち日和 地域で活動する法政大生が企画運営する交流イベント
2018 in 城山

城 show 起龍 じょうしゅう 起りゅう

開催日: 11月11日(日)
会場: 城北センター
相模原市緑区広田15-11 京神袋中バス(円形停留所)バス停から徒歩5分
参加無料 雨天決行(内容は一部変更)

第1部 (10時から順次開始～13:30)
城山大冒険～平成最後に城山の魅力を発見せよ!
触れて感じる4つの「体験コース」
～学生たちと一緒に地域の伝統や文化に浸ってよう!
①しめ縄作り ②おはやし ③縄文文化 ④イノシシ猟
集合: 川尻八幡宮 集合: 城北センター 集合: 城北センター 集合: 城北センター
時間: 10:15～13:00 時間: 11:00～13:00 時間: 10:30～13:00 時間: 10:30～13:00
※「体験コース」に参加しない方を対象に、11時と12時に城北センターを出発して4つの体験会場などを巡るミニツアーを予定しています。

1日限定「道の駅」11:00～13:30 会場: 城北センター
～学生の目線の活動成果と、地元のもの・産物」を展示・販売・販売いたします。
(ふるまい)イノシシ汁 12:30～13:30
※地産ご協力によりご提供、汁物だけのので、ごはんもの(おにぎりなど)はご持参ください!

第2部 13:30～15:30 会場: 城北センター
城山大冒険～第1部の発表会 & ワークショップ 学生×住民で話そう!
主催 法政大学 多摩地域交流センター
たままち日和実行委員会 042-793-3005
協力 城北自治会 小松自治会 城山湖里地里山観光振興協議会



第5回 2019年@相原 ゆくのき学園

当時のHUCCにおいて、連携が始まったばかりの相原地域との連携につなげる第一歩として、多摩キャンパスに程近い「ゆくのき学園」を会場に開催しました。多数の学生プロジェクト団体が参加し、大学生の視点から地域の子もたちとの交流を図っていきました。また、地域の方々や子どもたちとのワークショップでは、「相原にあったらうれしい場所」をテーマにディスカッション。様々な年齢層の参加者からの多様な意見に、まとめる学生たちは悪戦苦闘していました。

相原地域で活動される方々から、地元食材をふんだんに使った美味しいすいとんを用意頂き、このイベントを通じて、相原地区での交流・連携につながる良いきっかけを作ることができました。



■地域×学生交流イベント:はじめてのたまさんぽ(2021・2022)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学生たちの活動にも大きな制約を受ける状況が続きました。これまでのような大きなイベントの開催が難しくなった中、HUCCでの活動に生かせるよう、新たに始まったシリーズが「はじめてのたまさんぽ」です。

多摩キャンパスに最も近い町田市相原町・八王子市寺田町・相模原市緑区城山地区の3地区の成り立ちや課題を学ぶイベントです。HUCC 学生スタッフが協力頂ける近隣住民の方と、どのような場所を紹介するのか検討し、当日は参加者たちと一緒に実際に歩いて回ります。キャンパスに戻ってからは、各々が感じた成果を発表し合うワークショップを開催し、キャンパス周辺の地域を知る機会となりました。



はじめての
たまさんぽ

～地域への、はじめての一步～

相原編: 5/15 (日)	各回
城山編: 5/22 (日)	10:00~17:30
寺田編: 5/29 (日)	地域交流センター

地域を、
住む人の言葉で知る。
多摩キャンパスに隣接する
3つの地域を、地元の方の
案内をもとに散策します。
地元の方の言葉で
その地域について知り、
魅力は発見し、
地域で活動するきっかけに。

お申し込みフォーム



お待ちしております!

■HUCC 学生スタッフ～企画・運営に携わる～

HUCC の学生スタッフは、センター主催事業の運営や、学生プロジェクトとの交流・連携、学生スタッフ独自の企画にも取り組んでいます。学生プロジェクトは多岐にわたることから、他のプロジェクトの様子が見えづらくなることもあります。プロジェクト間の橋渡し役として、情報共有や意見交換の場を作り、異なる地域・テーマで活動するプロジェクト同士によるコラボレーションで、新たな活動の促進にもつなげていきます。活動地域やテーマを限定していない分、広い視野で様々な視点から地域に関わっていけるのが魅力です。



■関連授業科目の実施: 多摩地域形成論の開講

多摩 4 学部全学年を対象とした科目です。近隣地域から多様な専門領域のゲスト講師を招き、実践的かつ理論的に学びます。法政大学多摩キャンパスの歴史から、多摩地域に生きる人々、活動拠点にする企業人など、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について考えていきます。



<主なゲスト講師の所属先(順不同)>

- ・多摩信用金庫
- ・株式会社タウンキッチン
- ・八王子シルバーふらっと相談室館ヶ丘
- ・NPO 法人 法政クラブ
- ・京王電鉄株式会社
- ・株式会社ゼルビア(FC 町田ゼルビア)
- ・東京家政学院大学
- ・近隣自治体(町田市、八王子市、相模原市、日野市など)
- ・橋本商店街協同組合

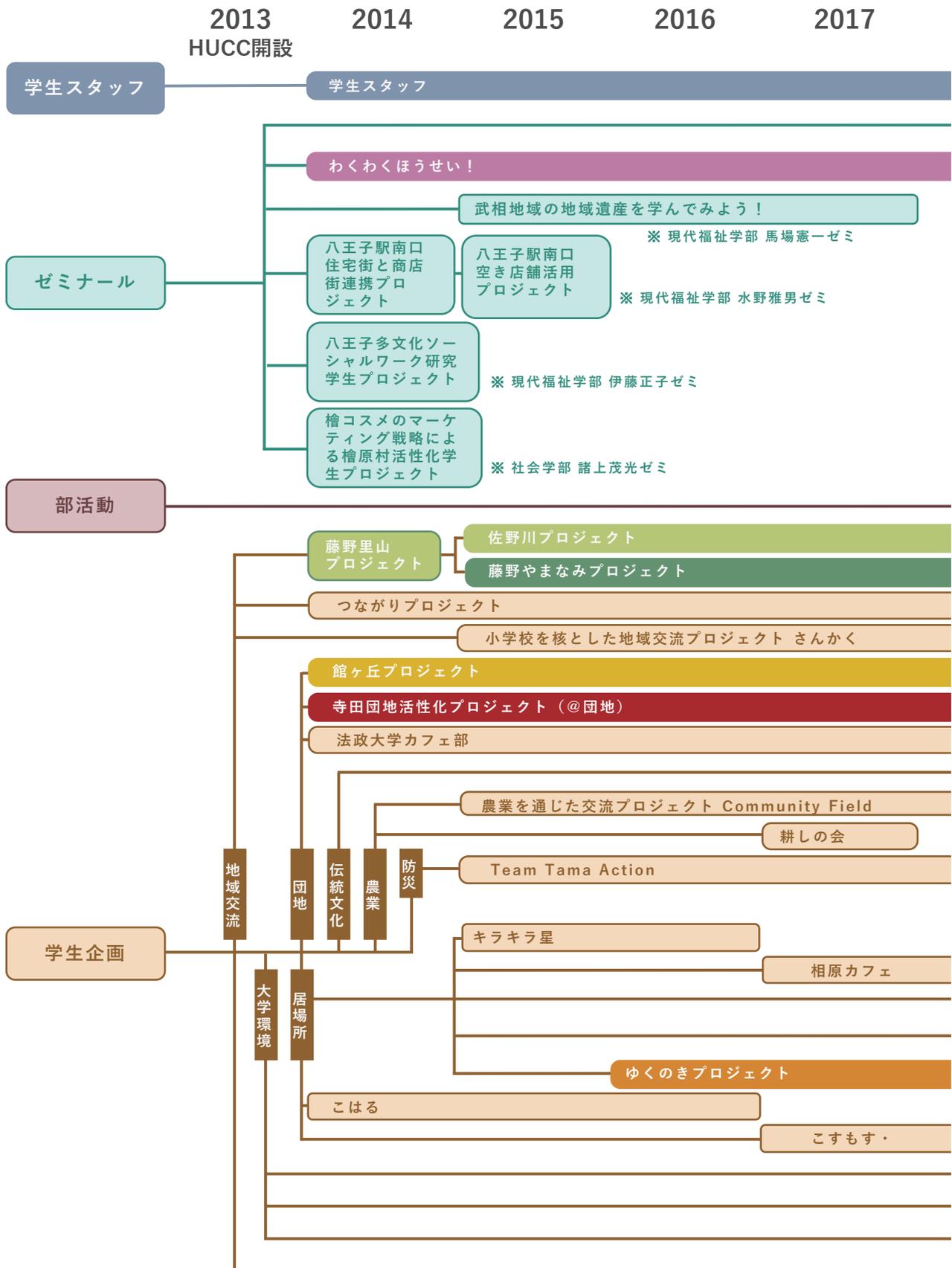
■学生プロジェクト: 地域の課題解決・魅力発信に携わる!

多摩キャンパス周辺は、多摩ニュータウンをはじめとした郊外型のベッドタウンが広がる開発エリアと、古くからの自然・伝統の残る農山村・里山エリアの中間に位置し、キャンパスに通う中で、日常的に様々な特徴を持った地域に触れることができ、全国のあらゆる地域課題を考える基本となる、数々の事例に接することができます。このような環境の中で、大学の主役となる「学生」が自ら行動を起こし、社会課題解決に向けた活動を展開していきます。

サークルやゼミ、個人活動のうち、地域交流・連携にかかわる活動を学生プロジェクトとして登録すると、助成金(最大・年間 15 万円)の交付等の様々な支援を受けることができます。テーマは個人やプロジェクトメンバーの関心に応じ、多種多様な切り口から地域交流・連携に取り組むことができます。

これまでの学生プロジェクトの変遷(年表)、2022 年度のプロジェクト資料はこの後のページにご紹介します。

Our History | HUCC/SICに登録したプロジェクトの歴史



2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024

SIC開設

若葉台
プロジェクト

※現代福祉学部
保井美樹・今井裕久ゼミ

※ 経済学部 山崎友紀ゼミ

【馬術部】馬と共に作る地域社会

お囃子プロジェクト

プロジェクト ふなで

へりぼーと

八王子つなぐ
プロジェクト

> ゆうやけプロジェクト (名称変更)

だれでも食堂

Team Fashion

Team Ethical

Team Circulation

しろやまふれんず

ボランティアスタッフ

Team Fashion

by ホーセイノベーションクラブ

世代や所属を超えて様々なカルチャーを楽しむことができる場所を作っていきます！

キーワード
地域交流
古着
ヴィンテージ



めじろ台という地域は緑に囲まれていながらも、生活利便性が高い地区である。また、古くから愛されているお店が多く、めじろ台特有のローカルな繋がりとというのもまた特色の一つであると考え。住んでいる方の年齢層が高いこともあり、音楽や読書、美術などのカルチャーに深い造詣を持つ方が散見される。



私が実際の町内会に参加した際、一人一人が地域を変えていくためにどのような行動ができるかというディスカッションを行っており、実際に変えていこうという姿勢が強く見られるのが現在のめじろ台の状態だと考える。



法政大学多摩キャンパスの立地は学生側として学生が楽しめる要素が少ないと思われてしまい、マイナスなイメージを持たれることが多い。また、コロナ禍を過ごした学生にとっては通う機会が圧倒的に少なく、より一層キャンパスや周辺を知る機会が少なかったように感じる。しかし記載したようにこの地域でしか味わえないような魅力があることは間違いない。

そこで私たちは、多摩キャンパスだからできるファッションが好きな学生が集える場所やきっかけを作る。そこでは世代や所属に関わらず、自分の好きと人の好きを自由に共有できる空間にしていく。具体的には古着の交換会やファッションショーなど洋服を扱うようなイベントである。どのイベントもファッションというものを軸に色々な人と楽しみながら進めていきたい。



活動地域

多摩キャンパス

めじろ台



Team Ethical by ホーセイイノベーションクラブ

多摩キャンパスと地域を食で繋ぐ

キーワード
食と地域



多摩キャンパスらしい食作り

多摩キャンパスの周辺は自然が豊かで、農業も盛んです。ですが、現状では地域のお野菜を使った地産地消の活動が大学で盛んに行われている訳ではありません。さらに、地域周辺の団地では高齢化が進み、大学生と高齢者の連携がますます必要となってきました。



地域農業との連携、 大学生から繋ぐ

田舎の多摩キャンパスに対するネガティブのイメージを素敵にしていくには、そこに通う大学生が主体的に動いていく必要があると考えています。私たちはその素敵にしていこう要素として「食」というキーワードをもとに活動をしています。



地産地消のフードシステムを作る主体としての大学生

自然に囲まれた多摩キャンパスの周りでは農業が盛んです。私たちは最寄りの駅近くにあるJA 町田市の直売所と連携しながら、地域のお野菜を使って大学と地域を繋ぐ活動を行っています。

さらに地産地消のお弁当を地域の高齢化が進む団地に届け、高齢者の皆さんと交流の機会を作ったりもしています。

様々な活動を通して、多摩キャンパスでしかできないフードシステムの改革を行ない、地域と大学を食でつなぎながら、キャンパスの素敵な個性を創造しています。



活動地域

多摩キャンパス

相原町



(2022 年度作成)

わくわくほうせい！ 2022

- 経済学部 山崎ゼミ -

子どもに理科の楽しさを知ってもらう

キーワード

- # 理科の実験
- # 科学に対する好奇心の喚起
- # 子どもたちとの交流



我々法政大学山崎ゼミの本プロジェクトは、地域の子もたちに科学の楽しさや魅力を伝えることを目標にしています。

幼少の頃から自然の草木や水、虫などに触れることなどを通して自然環境の大切さを知ってもらうことや、自然豊かな法政大学多摩キャンパスの魅力をPRすることも目的としてあります。



我々は、自然環境を通じた様々なイベントを実施しています。コロナウイルスの影響で6月にのみイベントが開催できていませんが、秋なら冬にかけてイベントは実施していく予定です。

下の写真では、6月19日に行われた福生市環境フェスティバルに参加した時の写真です。ここでは、我々学生が事前に実験の準備をし、子どもたちの前で各グループに分かれて披露しました。子どもたちにわかりやすい、かつ伝わりやすい実験をおこなったため、楽しんでもらえました。



4月から7月までの春学期は、コロナウイルスの影響もあり、子どもたちを対象にしたイベントは一度しか開催することができませんでした。実際に近い距離で話したり一緒に実験したりするため、仕方のないことだと思っています。

しかし、コロナウイルスが収束したらまたイベントを実施したいと考えています。10月には多摩キャンパスに近くの保育園の園児たちを招待し、多摩キャンパス内と一緒に散策したり、実験室で実験教室を行い、最後に、BBQ場を借り焼き芋を焼いて一緒に食べるイベントを実施する予定です。

子どもたちが楽しんでもらえるよう、実験のクオリティーをさらに高めたり、散策するときにスタンプラリーを行ったり、子どもたちが今後使えるようなものを一緒に作りプレゼントしたいと考えています。

このように予定通りに行けば良いですが、コロナウイルスの影響は思った以上に深刻です。もし、長引くようであれば、我々学生が実験をおこなっている様子を録画しそれを保育園に配布し、その実験で作ったものをプレゼントに行く必要があるかとおもいます。

また、仮にイベントができなくなった場合でも、キャンパス内での健康状態の管理や実験を行うときに細かくグループに分け密集を防いだり、感染対策はしっかりと行っていきたくと思っています。



活動地域

相原町

多摩キャンパス



(2022 年度作成)

ゆうやけプロジェクト

- たまぼら -

人と人との関わりを支援し、社会とつなげる

キーワード

- # 多世代交流
- # 児童支援
- # 高齢者支援
- # 放課後支援
- # 地域活性化

相原町

活動地域

相原町



相原地域の現状

- ・ひとり親世帯、独居高齢者の世帯の多さ
- ・コロナ禍における地域のコミュニティの希薄化
- ・高齢化と認知機能の低下

独居高齢者、寂しい思いをしている子どもたちと交流する場や人が相原地域には必要。



活動テーマ

ひとり親の負担を軽減し、多世代交流を通じて、認知症を予防、子どもたちは人間関係の構築の仕方を学べるようにする。

手話はハンデを補うものとして捉えるのではなく新しい言語であるという認識を少しでも持ってもらうことをテーマとする。



活動内容

○地域食堂「りびんぐ」
活動内容は、金曜日の午後に地域の人たちでレクリエーションや料理提供を行う予定である。10月と12月のイベント（料理提供ができなかった場合は、最後にハロウィンやクリスマスにちなんだお菓子を持ち帰れるようにする。協力してくれる方々と話し合い、コロナウイルスの感染リスクが低いと判断した場合は、本来のリビングのように地域食堂を行っていきたくと考えているが、その際も感染症対策を徹底する。

○しゅわしゅわパーティー
幼稚園年中から小学校低学年までに絵本やゲームを通じて、楽しく手話教室を行う。

○スマホ講座
コミュニケーションを大切にしながら、スマートフォンの使い方がわからない高齢者に対するサポートをする。

○オンラインサロン
スマホ講座の内容がきちんと定着しているのかを確認しつつ、オンライン上で交流をする。地域交流の場をオンラインにした理由は、コロナウイルス感染症予防の観点からである。さまざまなオンライン会議アプリがある中で、Zoomを選択した理由は、スマホ講座で取り扱っているアプリであるという理由と説明する側の学生がZoomを頻繁に使用しているため、相談に応じやすいからである。



(2022 年度作成)

寺田団地活性化プロジェクト -@団地-

「寺田団地での生活が楽しい！」を作りたい！

キーワード

- # 地域の活性化
- # 多世代交流
- # CAFE おひさま
- # お楽しみ DAY
- # スマホ講座

活動地域

寺田町



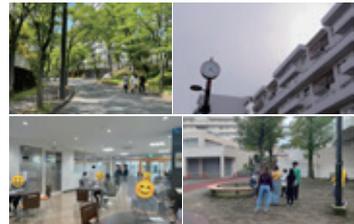
機能性に優れた大型団地、 グリーンヒル寺田！

東京都八王子市寺田町にある、ここ「グリーンヒル寺田」は緑に囲まれ、とても落ち着いた雰囲気のある団地です。景観もとてもよく、団地内にはスーパーやカフェ、ベーカリーなど様々な店舗が併設されています。



住民さん同士の「つながり」 をテーマに

グリーンヒル寺田は大きい分多くの住民の方々が暮らしています。しかし、高齢化の進行や、世代間でのかわりが少ないことも！そこで私たちは活動を通して住民の方が世代の垣根を超えて楽しく集まれる場所や機会を作ってゆくことをテーマとしています。



やるときはやり、 楽しむときは楽しむ、 それが私たち「@団地」！

私たちは「寺田団地活性化プロジェクト」の名前の通り、「グリーンヒル寺田」を活性化することにお力添えをすることをコンセプトにしています！では、活性化とはどのような状態になるのでしょうか？

私たちの考える活性化には二つの目標があります。それは「幅広い年齢層が地域に出入りしていること」、「住民が主体的に活動できる場があること」です。@団地は寺田団地の活性化を目的に様々な活動を行ってきました。

まずは「おひさま広場」というコミュニティスペースを住民らと共に整備したことです。シャッター街化した商店街の一角をリノベーションし、今では住民の有志による「CAFÉ おひさま」の営業やワークショップが行われるなど、住民憩いの場となっています。

次に子供に焦点を置いた「お楽しみ DAY」の開催と高齢者をターゲットとした「スマホ講座」など様々な企画の実施です。「お楽しみ DAY」では子供と一緒にボードゲームをやったり、外遊びをしたりしています。対して「スマホ講座」では高齢者の方のスマホに関する悩みを学生と一緒に解決することで念頭に置いています。そして全世帯を対象にした大型イベントも行ってきました！！

団地全体をアットホームな空間にしようと諸活動をしているのが我々「@団地」です！



(2022 年度作成)

館ヶ丘プロジェクト - たまぼら -

団地のにぎわい活性化プロジェクト

キーワード

- # 自然豊かな団地
- # 高齢者お助け
- # 子ども触れ合い
- # 季節イベント企画



多くの高齢者の生活の場、館ヶ丘団地

私達は法政大学多摩キャンパスから1km程のところにある館ヶ丘団地にて活動を行っています。館ヶ丘団地には約3000人の居住者がおり、最盛期には1万人程住んでいました。近年は住民の約6割が65歳以上で、高齢化が進行しています。



魅力は自然の豊かさ・人の温かさ

広大な敷地、緑の豊かさ、住民の方の温かさ、団地内で開催される多種多様なイベントなど、館ヶ丘団地ならではの魅力が多くあります。しかし高齢化の進行や空き家の増加、団地内商店街の衰退、孤独死などは大きな問題となっています。



住民 × 学生の交流の架け橋

コロナ禍の影響によって前年度は団地内での活動数が大幅に減少し、住民の方々との交流が疎遠になってしまいました。そのため、“住民 × 学生” のつながりの再構築を図るべく、今年度は既に団地での活動がスタートし、様々なイベントも企画しています。

このプロジェクトの活動は「個人活動」と「全体活動」の大きく2つに分かれており、前者はメンバーそれぞれが好きな曜日・時間に団地へ行ってお手伝いをする活動、後者はプロジェクトメンバー全員で進めていく活動です。

まず「個人活動」では、例えば団地内商店街にある“キッチンさくら”というお惣菜・お弁当屋さんで厨房や店頭、配達のお手伝いを行っています。また、電動自転車型の乗り物に足腰の不自由な住民の方を乗せて目的地までお送りする、団地名物“自転車タクシー”の運転のお手伝いや、団地内にある保育園の子どもたちが沢山来てくれる月一回開催の“子ども食堂”のお手伝いなどにも参加しています。

次に「全体活動」は、主に季節ごとのイベントで、今年度は夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーを計画しています。子どもから高齢の方まで年代問わず楽しめるような内容にし、多世代交流の場とすることが目標です。

この活動に興味を持ち参加してくれる新入生をお待ちしています！



活動地域

館町



(2022 年度作成)

つながりプロジェクト

里山地域“城山”を楽しみ尽くす

キーワード

- # 伝統行事
- # 多世代交流
- # 交流の場づくり



少子高齢化の進む里山地域

市内でも貴重な里地里山の景観が残り、様々な生き物が存在している美しい地域である。さらに昔からの町内会の仕組みや伝統的な季節の行事などが多く残っており、機能している。しかし近年では子供会がなくなるほど少子高齢化が進んでいる。



“人”に会いに行く地域活動

私たちが着目する魅力は“人”である。城山地区には地域を愛し、城山のために活動する人がたくさんいる。私たちは、このような魅力的な人々に会いに行き、またそれを通じて住民同士が繋がる機会も生むことをテーマとした地域活動をしている。



城山地区ならではの、城山地区だからできる企画を！

私たちは2つの軸を持って活動している。

1つ目の軸は「伝統行事の付随イベント」である。行事に付随した企画を学生が行うことで、これはコロナ禍で行事が中止となっても、住民同士が顔を合わせる機会や、行事そのものの意味を失わせないということを目指している。例えば、「梅のもぎ取り」という地域行事に対して、「梅の活用ワークショップ」という企画をつくり、学生が地域の方と一緒に地域の梅園に収穫に行き、調理をした。地域行事も実施できたが、付随ワークショップを行うことで、特産品である梅を、地域の方がどのように調理しているのかを知ることが出来た。

2つ目の軸は「主催イベント」である。例えば「サンタ de コンサート」が挙げられる。これは家の庭先で地域の小学生と法政大学の吹奏楽サークルがクリスマスソングを演奏する企画である。小学生・大学生・住民が集まることでの多世代交流や、地域で音楽が演奏されることによって活気が出ることを目指している。

これら2つの軸はどちらも、地域の方の協力があってこそ成り立つものであり、“人”という魅力を大きく感じることができる城山地区ならではの企画と言える。



活動地域

城山（城北・小松）



(2022 年度作成)

農業を通じた地域交流 -Community Field-

農業、やってみませんか？

キーワード
小松地域
地域交流
有機農業
野菜

活動地域

城山（小松）



城山・小松地域

このあたりは、周りに農家さんの多い地域です。皆さん私たちの畑を気にかけてくださっていて、作業中に野菜をおすそ分けしていただくこともあつたりします！近くには川が流れていて、蛍が飛んでいる場所もあると伺いました。



農業を通じて地域と関わる

私たちは、農作業に興味を持って集まったメンバーがほとんどです。実際に作業をしてみてももちろんありました。その大変さをみんなで味わい、野菜を収穫することで結束が生まれて活動できていると思います。



農業を経験する

活動は有機農法による野菜の栽培と、栽培の過程や収穫した野菜の提供によって地域の方と交流することです。有機農法とは化学肥料を用いない方法で作物を育てることで、肥料には米ぬかや貝殻の石灰、豚糞、馬糞などを使用します。

現在は夏に向けた作物を育てていて、普段の活動は平日だと個人で畑に行き雑草取りと水やりをおこない、休日には全体で集まって育ち具合を確認しつつ平日に残ってしまった分の作業をしています。

私たちはこうして農業に取り組んでいますが、農業の経験があるから集まったわけではありません。実家での家庭菜園や小中学校での畑くらの経験値しかない人がほとんどです。道具は何を使うのか、いつ植えるのが適切か、いつ収穫すれば良いのかなど分からないことだらけでした。今でも分からないことはたくさんあります。みんなで調べたり地域の農家さんにお伺いしたり、時には作業をともにしたりして活動してきました。

多摩キャンパスとその周辺にはたくさんの土地があり、都市部では見ることのない農業の光景が広がっています。自然に囲まれたこのキャンパスで過ごす4年間、ぜひ一緒に野菜を育ててみませんか？



(2022 年度作成)

馬と共に作る地域社会

- 体育会 馬術部 -

城山で馬と生きる

キーワード
 # 触れ合い
 # 体験型
 # 自然
 # 馬



豊かな自然、減りゆく活気

城山はなんと言っても豊かな自然が魅力的である。だが、少子高齢化により人口が減り空き家が増えている。せっかく自然が豊かな土地にも関わらず外で遊ぶ子供たちも減り、そうなると地域の活気もなくなってしまう。



「馬」に触れ合う、 「人」に触れ合う

普段なかなか触れる機会のない馬。馬たちと触れ合うことで生まれる活気 自然と広がっていく人の輪。「豊かな自然」の中、「馬」、「人」に触れ合い、魅力の詰まったここ城山をみんなで盛り上げていきたい。



城山でしか出来ない 素敵な体験を

馬に触れてみた経験はありますか？人々が馬に触れることで精神を落ち着けたり、成長させたりする効果があります。しかし、触れ合いは一方的な関係に留まりません。馬たちもまた人と触れ合うことで精神的に成長するのです。これをウェルビーイングと言います。ウェルビーイングによってこの自然溢れる城山の土地を馬と人の触れ合いによって盛り上げていく、というのが我々馬と共に作る地域社会プロジェクトの活動目的となっています。

法政大学馬術部の活動場所である城山校地内の馬場にあいはら幼稚園の園児に来て頂き触れ合う、またあいはら幼稚園にお邪魔して触れ合ったり、時にはイベントに参加して触れ合うなんてこともあります。去年はコロナにより触れ合いが活動の主体となる我々は制限が多くなり、満足に城山を盛り上げていくことが出来ませんでした。今年もまた難しい状況となっていますが、何とか工夫をして1人でも、1頭でも多くの人馬のいい経験となるよう頑張っていきます。

私たちとポニーのモカちゃん、多数の馬と一緒に城山を大いに盛り上げていきましょう。



活動地域

城山（城北）

相原町



(2022 年度作成)

お囃子プロジェクト - 多摩お囃子の会 -

伝統文化「おはやし」の継承を

キーワード
祭礼
囃子
伝統文化
アーカイブ



継承の危うい 貴重なお祭り文化

多摩キャンパスの近くに位置する城山地区には100年以上続く川尻八幡宮例大祭という伝統行事があります。そこで演奏を行う10の囃子連のいくつかは少子高齢化・過疎化、そして昨今の新型コロナウイルスによりが進み、例大祭への参加が厳しい状況におかれています。



伝統を受け継ぐ人々との交流

おはやしプロジェクトは、お囃子に関しては城山町史という史書にも城山地区の囃子連がまだ少なかった当時の記録しか残っておらず、各お囃子という伝統文化があっさりと消えてしまうリスクがあるため、春日囃子の継承、「春日囃子連」と連携して春日囃子の文化保存を目的とした活動を行っています。



人から地域、 地域からお囃子へ

私たちは地域の祭り文化であるお囃子を、学生が地域の方々と協力して保存、継承していくという目的のもとに活動しています。とにかく地域に実際に出向く、というのがこのプロジェクトの主軸となっています。実際に地域のイベントに積極的に参加し、その中で祭り文化や地域そのものに対する理解をお囃子の練習や住民の方々との関わりの中で学んでいきます。具体的には城山にある囃子連と呼ばれる組織の方々よりお囃子をご教授いただき、その後山車によって演奏をする経験を積み、半年に渡る練習期間を通して技術を磨いていきます。そのなかで、同じく城山地区で活動している「つながりプロジェクト」とも積極的に交流し、例大祭という地域最大のお祭り、そしてそれ以外のお祭りに向けて情報交換など、協力して地域発展に取り組んでいく予定です。このように活動の輪を広げていくことで、地域の方々とのつながりをより強固なものにし、地域をより深く理解してお囃子を存続させていけるよう活動していきます。



活動地域

城山（城北）



(2022 年度作成)

佐野川プロジェクト - たまぼら -

お茶を通じた地域パワー発信！

キーワード
景観保全
魅力発信
地域交流
上野原



佐野川の地域活性化を目標に！

主な活動場所は、神奈川県相模原市緑区佐野川地域です。私たちは、お茶を通じた「景観保全」「魅力発信」「地域交流」「お茶作りを楽しむ」の4つの柱を中心に地域活性化のお手伝いを行っています。



カギを握るのは「景観保全」

佐野川地域は、2009年に朝日新聞で「にほんの里100選」に選出されるほど風光明媚な地域です。しかし、少子高齢化の影響により、お茶畑の手入れが難しいご家庭が増えている事が課題です。



私たちの活動を ちょっと紹介します

私たちの活動を「景観保全」「魅力発信」「地域交流」「お茶作りを楽しむ」の柱ごとに紹介します。

1つ目の「景観保全」は、お茶畑のお手入れが難しいご家庭の整備を行って

す。歴代の先輩方の活動を私たちが引き継いで、美しいお茶畑を保ち続けています。

2つ目の「魅力発信」では、お茶畑をお借りして、地域の方のご指導のもと学生がお茶を育てる所から販売するまで携わります。茶葉の収穫など、このプロジェクトならではの経験をすることができます。昨年度は、製作したお茶80袋を完売しました。

3つ目の「地域交流」は、地域のイベントのお手伝いをしています。新型コロナウイルスの影響で、まだ再開できないイベントもありますが、以前はホテル祭りやひまわりを育てる活動に参加しました。今年度は、他のプロジェクトのイベントにも参加する予定です。

4つ目の「お茶作りを楽しむ」では、お茶のおいしい飲み方を探したり、飲み比べて佐野川茶の魅力を見つけたりしています。また、工場見学や生の茶葉から鉄板で私たちがよく見る茶葉までの加工を体験することによって、お茶についてより深く学んでいます。

最後に！このパネルを読んで、ちょっとでも興味を持っていただけたら嬉しいです。



活動地域

藤野（佐野川）

相原町（大戸）



(2022年度作成)

藤野やまなみプロジェクト - たまぼら -

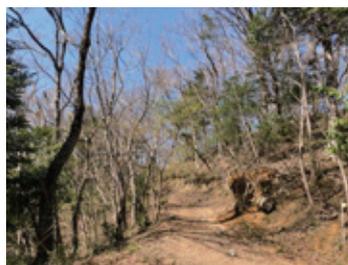
里山 " 藤野 " の自然を受け継ぐ

キーワード
自然
地域交流
植物
芸術



森と湖と芸術のまち

相模原市緑区の " 藤野 " は、「自然」と「芸術」が融合した地域です。森や湖のほとりに個性豊かなオブジェが点在しています。人の温かさに溢れた地域で、農業を営む方や芸術家、子育て世代など様々な人々が暮らしています。



豊かな自然を受け継ぐために

藤野やまなみプロジェクトでは、「豊かな自然を受け継ぐ」ことを目的として、「やまなみ公園」や「峰山ハイキングコース」の整備活動を行っています。やまなみ公園における主な活動は、「芝桜」や「紫陽花」の植樹です。整備活動は地元の方々と協働して行うため、活動に赴く度に会話が弾みます。そして活動終了後は、「やまなみ公園」に隣接する「藤野やまなみ温泉」へ。ゆったり温泉に浸かった後は、施設内の食堂で美味しいご飯が待っています。さらに、藤野やまなみプロジェクトでは、藤野の自然について発信するために広報誌制作にも取り組んでいます。藤野の情報をリサーチする過程で、昆虫写真家の方など、藤野に暮らす様々な方にお話を伺っています。



活動地域

藤野（牧野）



豊かな自然が人をつなぐ

藤野の大きな魅力は、自然の美しさ、そして来る者を拒まない風土です。ところが、多様な住民が自然を通して交流を深める一方で、環境保全活動に関わる住民の高齢化が進んでおり、自然を継続して守っていくことが難しい状況にあります。



(2022 年度作成)

法政大学ソーシャル・イノベーションセンター
Annual Report 2023 ver.1
HUCC から SIC への軌跡

2024年2月 発行

発行者 法政大学ソーシャル・イノベーションセンター
〒194-0298
東京都町田市相原町 4342
TEL:042-783-3014

